

# 令和5年（2023年）度事業報告書

学校法人 都築学園

令和5年 4月 1日～令和6年 3月31日

## 1 学校法人の概要

### (1) 基本情報

ア 学校法人 都築学園

イ 〒815-8511 福岡県福岡市南区玉川町2番1号

TEL 092 (541) 0161 (代)

FAX 092 (511) 5229

### (2) 建学の精神

学校法人都築学園の建学の精神は「個性の伸展による人生練磨」です。

「個性」とは、他とは区別される特徴的長所、美点、得意面を意味し、仏教で謂う“第一義諦”です。初等、中等教育の段階においては、生得的性格、資質、天賦の才能等を指しており、高等教育の段階においては、さらに進化し、「個性」すなわち「専門性」として、より高度化された学問的、実践的領域や分野を「個性」として位置付けています。

専門性に集中、特化する教育を基本とし、教養教育だけでなく、高度専門職、そして天職として自己の人生の社会的使命を自覚することを目指しており、「個性の伸展による人生練磨」は学校教育のみに終わることなく、生涯を通して自己実現を達成していく建学の精神です。

さらには、「個性の伸展による人生練磨」とは、人間一人ひとりの個性に始まり、各学校の個性、地域の個性そして国の個性を発揮し、世界に貢献することを目指しています。

### (3) 学校法人の沿革

昭和	31. 4	学校法人高宮学園創立（福岡第一高等学校）
	35. 1	第一薬科大学設置
	41. 4	福岡第一商業学校設置
		みやこ幼稚園設置
	52. 1	せふり幼稚園設置
	55. 4	法人名を「学校法人都築高宮学園」に名称変更
	60.10	法人名を「学校法人都築学園」に名称変更
平成	1. 3	第一自動車整備専門学校設置
		東京簿記情報ビジネス専門学校設置
	7. 4	福岡第一商業高等学校を「第一経済大学附属高等学校」に校名変更
	8. 4	大阪科学工業専門学校設置
	9. 4	東京簿記情報ビジネス専門学校を「東京マルチメディア専門学校」に校名変更
	12. 4	大阪科学工業専門学校を「大阪デジタルテクノ専門学校」に校名変更
	12. 4	関東リハビリテーション専門学校設置
	15. 4	第一医療リハビリテーション専門学校設置
	19. 4	第一経済大学附属高等学校を「第一薬科大学附属高等学校」に校名変更
	20.10	学校法人都築インターナショナル学園（日本薬科大学、東京介護福祉専門学校、お茶の水はりきゅう専門学校）及び学校法人姫路学院（近畿医療福祉大学）を吸収合併認可
	21. 4	第一医療リハビリテーション専門学校を「福岡天神医療リハビリ専門学校」に校名変更
	22. 4	近畿医療福祉大学 大阪キャンパス開設
	23. 1	東京介護福祉専門学校廃止
	23. 4	日本薬科大学学科設置（薬学部薬学科、医療ビジ初薬科学科）
		日本薬科大学お茶の水キャンパス開設
		大阪デジタルテクノ専門学校廃止
	25. 4	近畿医療福祉大学を「神戸医療福祉大学」に校名変更
	27. 4	第一自動車整備専門学校を「専門学校第一自動車大学校」に校名変更
	28. 4	第一薬科大学学科設置（漢方薬学科）
	29. 4	名古屋デジタル工科専門学校及び名古屋デジタル・アート専門学校を都築俊英学園から都築学園に設置者変更

令和	2. 3	名古屋デジタル・アート専門学校廃止
	2. 4	日本薬科大学大学院（薬学研究科）設置
		第一薬科大学看護学部設置
		神戸医療福祉大学 社会福祉学部を「人間社会学部」に学部名変更
		名古屋デジタル工科専門学校を「名古屋未来工科専門学校」に校名変更
	3. 4	第一薬科大学大学院（薬学研究科）設置
	4. 4	第一薬科大学薬学部薬科学科設置
		神戸医療福祉大学を「神戸医療未来大学」に校名変更
		神戸医療未来大学 社会福祉学科を「未来社会学科」へ学科名変更
		第一薬科大学附属高等学校 商業科を「A I ビジネス科」へ科名変更
		東京マルチメディア専門学校を「東京マルチ・A I 専門学校」に校名変更
		せふり幼稚園・保育園を「さわらサクラ幼稚園・保育園」に園名変更
	5. 4	神戸医療未来大学 経営福祉ビジネス学科を「経営データビジネス学科」へ学科名変更

## (4) 設置する学校・学部・学科等の学生

(R5.5.1 現在)

学校名		入学定員	入学者数	収容定員	在学者数
第一薬科大学	大学院 薬学研究科	2	0	6	2
	薬学部	183	136	1,058	847
	薬学科	113	116	678	657
	漢方薬学科	40	15	320	163
	薬科学科	30	5	60	27
	看護学部 看護学科	80	56	320	279
日本薬科大学	大学院 薬学研究科	3	3	12	16
	薬学部	360	224	1,950	1427
	薬学科	240	155	1,500	1091
	医療ビジネス初薬科学科	120	69	420	336
神戸医療 未来大学	人間社会学部	400	169	1,600	804
	未来社会学科	120	18	480	150
	健康スポーツコミュニケーション学科	180	74	690	327
	経営ゲームビジネス学科	100	77	430	327
福岡第一高校	全日制課程	760	711	2,280	1911
第一薬科大学付 属高校	全日制課程	300	232	810	536
	通信制課程	500	125	1,500	585
みやこ幼稚園		—	43	140	127
さわらサクラ幼稚園		—	19	120	51
さわらサクラ保育園		—	9	19	12
専門学校第一自 動車大学校	工業専門課程	155	95	310	165
東京マルチ・AI 専 門学校	商業実務専門課程	155	118	525	192
	文化教養専門課程	50			
	工業専門課程	60			
関東リハビリテーション 専門学校	医療専門課程	80	54	240	147
福岡天神医療リハ ビリ専門学校	医療専門課程	140	138	420	355
お茶の水はりき ゆう専門学校	医療専門課程	56	56	168	160
名古屋未来工科 専門学校	工業専門課程	160	70	320	158
合 計		3,444	2,258	11,798	7,774

(R6. 5. 1 現在)

学校名		入学定員	入学者数	収容定員	在学者数
第一薬科大学	大学院 薬学研究科	2	2	8	4
	薬学部	183	86	1,068	791
	薬学科	113	57	678	590
	漢方薬学科	40	23	300	165
	薬科学科	30	6	90	36
	看護学部 看護学科	80	75	320	276
日本薬科大学	大学院 薬学研究科	3	1	12	13
	薬学部	360	174	1,960	1344
	薬学科	240	103	1,480	1013
	医療ビジネス初薬科学科	120	71	480	331
神戸医療 未来大学	人間社会学部	220	280	1420	786
	未来社会学科	120	55	480	140
	経営デジタルビジネス学科	100	225	400	432
	健康スポーツコミュニケーション学科	—	—	540	214
	健康スポーツ学部 健康スポーツコミュニケーション学科	180	84	180	84
福岡第一高校	全日制課程	760	763	2,280	1973
第一薬科大学付 属高校	全日制課程	300	265	810	623
	通信制課程	500	110	1,500	594
みやこ幼稚園		—	36	140	118
さわらサクラ幼稚園		—	9	120	42
さわらサクラ保育園		—	7	19	18
専門学校第一自動車大学校	工業専門課程	155	128	300	193
東京マルチ・AI 専 門学校	商業実務専門課程	155	225	525	323
	文化教養専門課程	50			
	工業専門課程	60			
関東リハビリテーション 専門学校	医療専門課程	80	31	240	123
福岡天神医療リハ ビリ専門学校	医療専門課程	140	105	420	347
お茶の水はりき ゆう専門学校	医療専門課程	56	56	168	162
名古屋未来工科 専門学校	工業専門課程	160	140	320	208
合 計		3,444	2,577	11,810	8,022

## (5) 各学校の所在地

学校名		住 所
第一薬科大学		福岡県福岡市南区玉川町2-2-1
日本薬科大学	さいたまキャンパス	埼玉県北足立郡伊奈町小室10281
	お茶の水キャンパス	東京都文京区湯島3-15-9
神戸医療未来大学	姫路キャンパス	兵庫県神崎郡福崎町高岡1966-5
	大阪天王寺キャンパス	大阪府天王寺区烏ヶ辻2-1-4
福岡第一高校		福岡県福岡市南区玉川町2-2-1
第一薬科大学付属高校		福岡県福岡市南区玉川町2-2-1
みやこ幼稚園		福岡県福岡市南区塩原3-8-21
さわらサクラ幼稚園・保育園		福岡県福岡市早良区四箇田団地6-1
専門学校第一自動車大学校		福岡県福岡市博多区東光2-14-12
東京マルチ・AI専門学校		東京都新宿区百人町1-13-16
関東リハビリテーション専門学校		東京都立川市錦町6-2-9
福岡天神医療リハビリ専門学校		福岡県福岡市中央区渡辺通4-3-7
お茶の水はりきゅう専門学校		東京都文京区湯島1-3-6
名古屋未来工科専門学校		愛知県名古屋市中村区椿町13-7

(6) 役員・評議員

ア 理事 (定数は5人以上7人以内 現員6人)

職	氏名	就任年月日	現職等
理事長	都 築 仁 子	H16. 11. 1	(第一薬科大学学長)
理事	鎌 田 積	R5. 4. 1	(神戸医療未来大学学長)
理事	都 築 明寿香	H20. 2. 1	(東京マルチ・AI専門学校校長)
理事	森 口 浩 二	R 1. 5. 1	(都築学園事務局長)
理事	山 田 メユミ	R 1.10. 1	(株式会社 取締役)
理事	田 村 靖 邦	R 3. 4. 1	(名誉官司)

イ 監事 (定数は2人 現員2人)

職	氏名	就任年月日	現職等
監事	木 下 亮	H31. 2.20	(税理士)
監事	有 吉 泰 三	R 5. 7. 1	

ウ 評議員 (定数は15人以上26人以内 現員17人)

職	氏名	就任年月日
評議員	都 築 仁 子	S60.12.10
評議員	都 築 明寿香	H18. 5.15
評議員	江 崎 久	R5. 4. 1
評議員	テイケン セバスチャン	R6. 4. 1
評議員	吉 武 毅 人	H18. 5.15
評議員	都 築 稔	H14. 8. 1
評議員	秋 山 博	R 4. 4. 1
評議員	小 松 生 明	R 5. 4. 1
評議員	都 築 美紀枝	H17. 7.16
評議員	千 葉 輝 正	R 5. 4. 1
評議員	鎌 田 積	R 5. 4. 1
評議員	乳 井 卓 吉	H21. 1. 5
評議員	椿 信 二	H24. 4. 1
評議員	田 中 淳	H24. 4. 1
評議員	田 平 裕 隆	H28. 4. 1
評議員	森 口 浩 二	H28. 4. 1
評議員	山 田 メユミ	R 1.10. 1

## (7) 教職員数

(R6. 5. 1 現在)

大 学 等	教員数	事務職員数
第一薬科大学	73	30
日本薬科大学	65	58
神戸医療未来大学	44	32
福岡第一高校	57	25
第一薬科大学附属高校	25	6
みやこ幼稚園	9	2
さわらサクラ幼稚園・保育園	12	3
第一自動車大学校	9	4
東京マルチ・A I 専門学校	18	5
関東リハビリテーション専門学校	11	7
福岡天神医療リハビリ専門学校	25	9
お茶の水はりきゅう専門学校	9	5
名古屋未来工科専門学校	9	5
法人本部	—	19
合 計	380	211

・平均年齢 教 員 49.1才

事務職員 52.8才

## 2 事業の概要

### (1) 主な教育・研究の概要

#### ア 第一薬科大学

##### (ア) 教育

###### a 学部学科の改組転換等の検討

社会のニーズに対応するため大学院、学部、学科の収容定員を含めた見直しについて検討中である。文部科学省の「大学・高専機能強化支援事業」公募を基に、令和8年度以降に新たな学部学科の開設に向けて編成の見直しを継続する。

###### b 3つのポリシーに基づく教育の質的向上

平成29年(2017年)4月施行の学校教育法施行規則改正に伴い策定した3つのポリシーに基づいた教育の推進のため、教育効果測定方法の策定を進めている。本学では「個性の伸展による人生練磨」を建学の精神として掲げ、その目的及び使命を学則に定めている。これを具現化するために学部学科ごとに教育目標を定めている。

###### (a) 薬学部

令和6年度より実施予定の新カリキュラムおよび3つのポリシー改定の準備を行った。この新カリキュラムは、『薬学教育モデル・コア・カリキュラム(令和4年度改訂版)』に基づき、6年制薬学科及び漢方薬学科の1年次生を対象に、令和6年度から新教育を開始する。

###### (b) 看護学部

令和2年の設置認可申請時に策定した3つのポリシーに基づく教育を確実に実施した。中でもディプロマポリシーについては、各分野科目の成績評価により検証を行った。

###### c 入学者選抜

令和6年度の総合型選抜試験及び学校推薦型選抜試験(特待生推薦・一般推薦)では口頭試問を含む面接試験を実施し、学校推薦型選抜試験(公募制)、特待生選抜試験及び一般選抜試験はマークシート方式(一部の科目では筆記試験も含んでいる)の学力試験を行った。基礎学力と医療人として活躍できる人材を評価するため、各試験(大学共通テストを除く。)で面接を導入し総合的に評価して入学者の選抜を行った。

###### d 初年次教育による就学基盤の確立

(a) 早期入学予定者に対しては、薬学教育推進センターと連携し、入学前学習指導(基礎科目の添削プログラム)やスクーリング(薬学部は2回、看護学部は1回)を開催した。

(b) 令和5年度のフレッシュマンセミナーは学部ごとに実施し、薬学部は福岡県の英彦山青年の家を利用して1泊2日、看護学部は太宰府天満宮や九州国立博物館の施設で1日の計画で研修を実施した。学部毎、学生リーダー計画のもと各種イベントで学生同士が協力することで同級生と上級生とで親睦を深め、学生の学校生活への早期での適応を図った。

(c) 薬学部では、新入生の化学、生物、数学・物理の習得度について、昨年同様、薬学ゼミナールのプレイスメントテストを利用し、基礎学力を確認した。薬学への招待、

医療概論の科目内容を充実させ、学生のモチベーションを高める工夫を行った。また新たに科目横断演習を導入し、学生の基礎学力アップを目指した。

#### e カリキュラムの検証

- (a) 薬学部では、薬学教育の質の向上と最新の学術動向の反映を目指して、令和6年度から「薬学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）」に準拠した教育プログラムの導入を予定している。この移行に先立ち、令和5年度には、現行の令和4年度カリキュラムの詳細な検証を実施した。この検証作業には、教員、学生、業界関係者のフィードバックを積極的に取り入れ、令和6年度カリキュラムの策定に至った。この新しいカリキュラムは、薬学分野における最新の知見と社会的ニーズを反映したものであり、学生たちが将来、薬学専門職として優れた能力を発揮できるよう設計されている。
- (b) 看護学部では、令和5年度に学部設置の完成年度を迎えた。このため、過去数年間にわたり実施されたカリキュラム（看護師、保健師、助産師）の総合的な検証を行い、その結果を基に改善点を明確にしている。このプロセスには、教育内容の質の確保と効果的な学習方法の提供が含まれており、学部全体での教育成果の向上を目指している。

#### f 薬学部薬科学科の教育体制の充実

医療データ科学専攻と生命医科学専攻の2専攻体制において、実践的な学びの提供を重視した。実際に講義を受講した学生の中から、1名が「ITパスポート試験」に合格した。令和5年度より、教職課程を新たに開始し、4名の学生が履修した。これにより、将来の医療分野における教育者として活躍する人材を育成する基盤を築いた。また、高校教諭1種（情報）の教員免許状の所要資格を得るための課程認定（令和7年度）の申請を準備した。

#### g オンライン授業の充実

令和5年度における教育方針は、新型コロナウイルス感染症の影響が減少する中、対面式の講義及び演習を基本として実施した。この移行期においても、学生たちの能動的な学習を促進し支援するために、動画コンテンツの新規作成や優れた教材の購入を積極的に行い、学生が講義時間外にも自由にアクセスし活用できるようにした。

また、学生に柔軟な学習環境を提供するために、国家試験、CBT対策に利用している現行のWeb問題システムを、SATT社のESSへ変更した。

#### h 看護学部教育体制の充実及び国家試験

##### (a) 看護学部教育実習

1年次の基礎看護実習Ⅰ、高齢者看護学実習Ⅰ、2年次の基礎看護実習Ⅱ、3年次の領域別実習、さらに4年次の統合実習については、学外において円滑に実習を履行することができた。しかし、今後も感染症発症などの状況に応じた学内実習への変更など柔軟な対応が必要である。

##### (b) 保健師課程、助産師課程

2年次末に選抜された保健師課程10名・助産師課程5名の学生は、3年次の領域別実習後に集中講義を実施した。

### (c) 国家試験対策

学年別に模擬試験を実施し、学生個人の学力レベルの確認を行った。

4年生に対しては、通年での計画的な模擬試験の実施と不得意分野の対策講座に加え外部機関による夏季講座を案内し合格に向けた学習強化を図った。さらに、12月から1月にかけては特別集中講座を実施した。

### i 大学院教育体制の充実

大学院講義担当教員による特論講義、外部講師による大学院特別講義および指導教員の下での薬学演習、課題研究を行った。教育の充実をはかるため、日本薬学会主催の「第1回シン・全国学生ワークショップ」に本学薬学部・薬学科3年生1名が参加した。

## (イ) 研究

### a 教育研究体制の充実整備

#### (a) 科研費採択数（採択率）の向上

本学では「競争的資金に関する間接経費取扱内規」、「共同研究取扱内規」等を定め、学内研究環境の整備や学外研究機関との研究活動を推進している。令和4年度に整備した「バイアウト制度」の活用や学内交流セミナーの開催により学内教員の研究活性化を推進した。更に、科研費申請書添削や前年度科研費不採択者への研究奨励金助成などの全学的な研究活動支援を実施し、科学研究費助成事業の申請を促進し、科研費および競争的研究費9件、民間研究助成金で5件の採択を受けた。

### b 研究成果の地域社会への還元

#### (a) ひらめき☆ときめきサイエンスの実施

日本学術振興会科学研究費「ひらめき☆ときめきサイエンス ～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI」の採択を受け、中高生のためのプログラムを実施した。福岡県を中心に、中高生15名が参加、高校教諭約20名の見学があり、大学の科研費による研究成果を紹介、地域社会に還元した。

#### (b) 新型コロナウイルス感染症での産業界との連携

新型コロナウイルス感染症の影響からマスク着用の生活が基本となり、「除菌、抗菌、消臭」効果のある「ハイジエイド」を本学と「東和バイオ」と共同開発した。

#### (c) 企業への特許実施許諾

サフランエキス末アフロロンが臨床試験において「睡眠の質の改善」が確認され「睡眠」「気分」への機能性表示食品として届け出が受理され、その特許において、第一薬科大学と企業（株式会社SBS）との間で特許実施許諾契約を結び、研究成果を社会に還元している。

## (ウ) 社会貢献および地域連携

### a 社会貢献・地域貢献の充実

#### (a) 福岡県・福岡市薬剤師会との連携

市役所前広場において、11月に開催された「令和5年度福岡市防災フェア」に福岡市薬剤師会と連携して参加し、「モバイルファーマシーの紹介」と「こども調剤体験」を行った。

○大隅基礎科学創成財団 第8回 小中高生と最先端研究者とのふれ合いの集い

開催日時：令和6年1月21日（日）13：00～17：00

場所：九州大学医学部百年講堂

実施内容：第一薬科大学も後援として、科学の実験・体験ブースにおいて「漢方薬をつくろう」、「薬草探索 VR 体験」で参加した。

**(b) 福岡市南区と包括連携協定**

福岡市南区に位置する大学等と合同で実施する小学生向け体験講座のイベントである「南区こども大学」では「色が変わるハーブティーを使って色々な液体の性質を調べてみよう！」を講座名として、7月に開催し、小学生20名の参加を得た。

**(c) 高大連携課題研究発表会**

第6回高校生サイエンス研究発表会を、第一薬科大学・日本薬科大学・横浜薬科大学の主催で、オンライン発表会及びポスター発表会を開催した。

**(d) 試験会場としての施設の提供**

医師国家試験、歯科医師国家試験、薬剤師国家試験の試験会場として、また、日本化粧品協会が行う検定試験会場として、本学の施設を提供した。

**b 社会貢献・地域貢献の更なる拡大**

**(a) 福岡市災害ボランティアセンター設置・運営訓練**

令和5年12月1日（金）福岡市及び社会福祉協議会と連携して、福岡市災害ボランティアセンター設置・運営訓練を本学内において実施した。

**(b) 薬物乱用防止教育**

九州・山口・沖縄地域から約50の小学校・中学校・高等学校からの依頼により、講師1名を派遣して薬物乱用防止のための講演を行った。

**(エ)アントレプレナーシップ教育の推進**

PARKS (Platform for All Regions of Kyushu & Okinawa for Startup-ecosystem) 事業の一環として㈱リバネスによる高校生向けのアントレプレナーシップ教育を2回にわたり行い、第一薬科大学附属高校のビジネス科の高校生が「超異分野学会東京大会2024」では2演題を発表した。

また、小中学生向けに㈱スタートアップポップコーンによる「アントレプレナー教育プログラム2023『君も世界を変える起業家になる』」を開講した。

今後も将来的に本学の若者が起業に興味を抱くような活動を継続する予定である。

**(オ) 国際交流**

海外医療研修として、令和4年度の海外薬学研修(デュケイン大学)への研修会開催に引き続き、令和5年度は台湾薬学研修を日本薬科大学とともに開催した。また、学術交流の更新年となっている大学と更新手続きを実施した。

**a 海外薬学研修**

研修期間：令和6年3月11日（月）～3月19日（火）

研修先：台湾（国立陽明交通大学、中国医薬大学、嘉南薬理大学等）

研修内容：台湾薬学研修プログラムで本学から19名が参加し、語学の習得（中国語・英語）、現地での中医学・中薬学の学習・体験、学生間交流などのプログラ

ムに参加した。

#### b 締結大学との更新

「米国・デュケイン大学薬学部」、「上海中医薬大学」、「アントワープ大学」、「カラブリア大学」、「国立陽明交通大学」等との学術交流協定の更新手続きを実施した。今後とも充実した交流となるように継続して努めていく。

### (カ) 募集・広報

#### a 広報活動内容の強化

本学公式の SNS サイトを利用した広報活動を強化したことにより、YouTube、Instagram 及び Twitter の登録者数が大幅に増加した。昨年度に引き続き、YouTube の登録者数は、薬学部を主な学部とする全国の大学のなかで 1 位となった。本学ホームページへのアクセス増加を目的として Google ディスプレイ広告および Instagram 広告を積極的に展開するとともに、ホームページは常に最新のオープンキャンパス情報をトップページに表示させ、オープンキャンパスへの誘導を図った。薬科学科の広報では、新たに中学校・高等学校理科教職課程が設置されたことの周知に重点を置き、ホームページ、SNS、チラシなど、あらゆる広報媒体を利用して情報を発信した。また、薬物乱用防止教室を実施した九州・山口・沖縄の 74 校の高等学校において、講演冒頭で薬科学科を中心に本学の紹介を実施した。

#### b オープンキャンパスの創意工夫

薬学部、看護学部ともに来場型、ライブ配信型及び Net 型のオープンキャンパスを実施した。いずれのタイプのオープンキャンパスも学生主体で実施し、特に薬学部の説明では、漢方薬学科および薬科学科の魅力や将来性に重点を置いた。また、新たな試みとしてオープンキャンパス中に本学と関係する遠隔の施設からのライブ中継を行い、今年度は学術連携協定を締結した高知県立牧野植物園、漢方薬学コースの実習先である飯塚病院薬剤部および天神地区の名称の由来となった水鏡天満宮からライブ中継を実施した。

#### c 高大連携の強化

高大連携提携校のうち 13 の高等学校に総合的な探究の時間のアドバイザー、中間・最終発表会審査員などの講師として派遣し、17 の高等学校には体験実習、生薬・漢方講義を行い、教育活動支援を行った。

### (キ) 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等（FD・SD活動）

FD・SD活動として薬学部ではFD活動として、「学生による授業評価アンケート」および「教員による授業自己評価」を行い、今後も継続して授業内容の改善を図る。

毎年刊行している「FD・SD活動報告書」を、本年度は電子版として全教職員に配信した。また、教職員の啓発を行うために、以下の講習会を開催した。

#### a 薬学部 第1回 FD・SD講習会

(a) 日時：令和6年1月29日（月） 13:00～14:00

(b) 演題：「障害者差別解消に関する相談の現場から～合理的配慮の提供プロセスについて～」

(c) 講師：高次 美佳氏（福岡市障がい者 110 番 専任相談員）

## **b 看護学部 FD講習会**

- (a) 日時：令和5年8月10日（木） 13：00～
- (b) 演題：「看護における薬理教育」
- (c) 講師：赤瀬 智子先生（横浜市立大学 教授）

## **(ク) 学校評価**

薬学部では、「薬学教育評価」について平成30年度に受審し、評価が保留となり「再評価」となった。その後自己点検・評価機能を強化して改善を進めた結果、令和5年度に受審した薬学教育再評価（本評価申請年度 平成30年度）において適格の判定を受けた。令和6年度の機関別認証評価受審に向けて全学的な自己点検・評価を行っている。

## **イ 日本薬科大学**

### **(ア) 教育**

#### **a 学士課程教育の充実**

##### **(a) 教職課程の認定ほか4年制学科の強化**

医療ビジネス薬科学科に教職課程（中高理科一種）を設置するための申請作業を行い、令和5年12月に課程認定を受け、令和6年度から開設する。

また、お茶の水キャンパスに韓国薬学コースを開設し、韓国医学の伝統校であるキョンヒ大学で開催された短期留学に学生7名が参加した。さらに、キャリア教育の充実を目指して、カリキュラムマップを整理し、医療分野およびビジネス分野の教育とキャリア教育の関連性を明確化する等の充実を図った。

##### **(b) 薬学教育モデル・コアカリキュラム（新コアカリ）改訂への準備**

次年度から開講される新カリキュラムについて、科目の単位時間の見直しや教養科目の学部共通化等に留意しつつ準備作業を行なった。また、両学科共通した学位プログラムの外に新たに副専攻を認定するプログラムとして、データサイエンス系の選択科目を充実した。

##### **(c) 教育に関する各種指標の向上**

年間を通じたFD勉強会を通じて、教員の教育スキルの向上、学修者本位の教育への転換として、ティーチングからコーチングへの意識改革、アクティブラーニング等の教育技法の習得を行った。進級率、卒業率等の向上を図るとともに、効果的な評価要領について教学IRで検討する。

##### **(d) 医療機関との連携強化**

自治医科大学さいたま医療センターへ教授1名を派遣し、臨床研修の他、糖尿病薬剤師外来の開設と運営に協力した。また、稲垣薬局で准教授1名、八王子山王病院で助教1名が臨床研修を行った。

#### **b 学生支援の充実**

##### **(a) 学生の主体的な活動の支援**

課外活動の活性化を支援し、学園祭をコロナ前の体制に戻し、学園祭では、在学生、卒業生、近隣住民を含めて1,000人を超える来場者を迎え入れた。

## (b) 休・退学者の減少

食堂・厚生棟に Wi-Fi を設置し、講義棟や研究実習棟から食堂・厚生棟に至るまで、学生の居場所確保を目指して整備した。また、課外活動や地域連携活動を積極的に推進した結果、休・退学者数、留年者数とも前年度より減少した。

## c 就職支援の充実

就職ガイダンスの実施や就職に関するさまざまな相談に対応した。6年制学科では、公務員ガイダンスや大学院進学ガイダンスなど、多様な進路選択の場を提供した。4年制学科では、教育課程内外でインターンシップ等を実施し、学生の自発的な就職活動を促した。就職内定状況は、6年制学科で、病院 15 名、調剤薬局 27 名、ドラッグストア 29 名、公務員 1 名、製薬 1 名、となり（就職率 93.6%）、4年制学科は、病院 6 名、調剤薬局 8 名、ドラッグストア 14 名、製薬・治験 5 名、公務員 2 名、その他 40 名となった（就職率 97.4%）。また、進学は、6年制学科 1 名、4年制学科は 2 名であった。

## d 社会人の学び直し需要の取り込み

次年度に開設する「漢方医療従事者専攻コース」の準備を行うとともに、文部科学省に「職業実践力育成プログラム」、厚生労働省に「教育訓練給付制度指定講座」の申請を行った。また、開設 9 年目を迎えた文部科学大臣認定職業実践力育成プログラム「漢方アロマコース」は、文部科学省の学び直しポータルサイト「マナパス」で上位アクセスランキングを維持しており、新コースと併せ、大学の次の収益の柱として、個人・企業の新たなコミュニティ形成を支援する。

## (イ) 研究

### a データサイエンスセンターの本格始動

文部科学省「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）」の内容を改善し、AI やデータサイエンスの活用の基礎を修得できるようにした。

また、学外機関との共同研究で、地域医療に関わるビッグデータ解析を推進し、学生による研究発表を積極的に行った。

### b 外部資金の獲得推進

科研費応募件数は、令和 4(2022)年度 28 件に対して、令和 5(2023)年度 33 件であった。なお、令和 4 年度の採択者は 4 名、令和 5 年度の採択者は 5 名となっており、令和 2 年度から 3~5 名と継続的に獲得している。リスク教育として補助金を獲得するとともに寄付金については、教育研究支援をはじめ、学生の修学や環境整備支援としての寄付金を獲得した。今後も外部への働きかけを継続しながら寄付金の増加を図る。

## (ウ) 大学院（薬学研究科）の充実

薬学研究科は完成年度を迎えて、修了者となる博士号授与の学生を 1 名輩出した。今後も内容の充実を図りながら、安定した入学生の確保を目指す。

## (エ) 大学機関別認証評価の受審

日本高等教育評価機構による認証評価を受審し、「機構が定める大学評価基準に適合していると認定された。優れた点として、「薬学部薬学科に漢方薬学コースが設置され

ている点からも漢方資料館は貴重な施設であり、学生の利用のみならず学外見学者にも開放され、広く利用されている点は評価できる。」「教育体制整備への参画意識の醸成を目的として、教員相互による授業参観に全職員が参加していることは評価できる。」の2点が記載された。

#### (オ) 募集・広報

オープンキャンパスや入試説明会など様々なイベントの実施、入試区分の変更や地方試験会場の新規設定などを実施し、受験者などについてはまずまずの結果でしたが、入学定員に達することができなかった。大学に関する情報をニュースリリース、動画、ソーシャルメディアにより積極的に発信し、多くの媒体に掲載されるなど、大学の知名度は徐々に向上している。

#### (カ) 産学官連携・高大連携の強化

新たに富士見市、東松山市、本庄市、五霞町(茨城県)と連携協定を締結し、計28自治体・行政(1区14市11町2教育委員会)と連携協定を締結した。さらに、スポーツ・栄養薬学コースの教育研究の充実を目指して、ラグビーリーグワンの埼玉パナソニックワイルドナイツ、男子プロ卓球チーム(Tリーグ)T.T彩たま、女子バスケットボール(Wリーグ)東京羽田ヴィッキーズと連携協定を締結した。

#### (キ) 国際交流活動の深化

新型コロナウイルス感染症の沈静化を受け、交流が活発化した。夏季に135名、冬季に34名の海外学生を対面で受け入れ、薬学、漢方、日本文化に関する独自研修を開催した。また、夏季に本学学生7名が韓国に、春季には2名が台湾に、1名が韓国に短期留学した。

### ウ 神戸医療未来大学

#### (ア) 教育

##### a 学科名称変更に伴う教育課程の再編成

令和5年4月より、経営福祉ビジネス学科の名称を「経営データビジネス学科」へ変更する。それを受け、令和5年度以降の入学学生を対象とした、新たな学科名称の目的に適合する新たな教育課程の編成を図る。編成の際は、各学科で取得可能な資格の整理と見直しを念頭に置くとともに、設置授業数と教員数との均衡に留意する。

##### b オンライン授業の充実

新型コロナウイルス感染症の拡大の影響を受け、令和4年度は対面授業とオンライン授業を適切に組み合わせ開講したが、令和5年度は社会状況を見極めながら対面授業を中心にオンライン授業を効果的に併用し、効果的な教育体制の構築に努める。

##### c 社会福祉士養成課程の再構築

新カリキュラムに基づいた社会福祉士養成課程の学外実習が令和5年度より始まることから、令和3年度から検討してきた実習体制を具体化し、新カリキュラムに対応した新規の授業を順次開講する。

##### d 修学指導の充実

令和2年度から新たな学務システム(active academy advance)を導入したことで、

学生の修学状況（出欠の状況・授業履修の状況・成績など）を容易に把握できるようになり、修学指導の即時性・利便性が大きく向上した。引き続きこれらを有効に活用することで退学率の低下を図るとともに、履修登録制度などについて新たな方法について検討する。

#### e FD活動の活性化

アクティブアカデミーを利用した授業改善アンケートについて、学生、教員ともに完熟してきたため、授業改善に向けたデータを蓄積するべく、回答率の向上に努め、また、授業参観や国内及び学内のFD研修と合わせて、教育改善に努める。

### (イ) 研究

学内研究費の充実はもとより、文部科学省科学研究費をはじめとする外部資金の導入を更に促進することにより、研究活動の活性化に努める。

### (ウ) 学生支援

#### a 多様な背景を持つ学生へ支援体制の強化

多様な背景を持つ学生への合理的配慮に基づく支援体制を強化するため、全学的な支援体制を強化する。また、担任教員、学生課及び学生相談室が連携を図りながら、様々な学生の学習面、生活面、精神面、コロナ禍における経済的困窮等適切な相談、支援の体制を整える。

#### b 正課外教育の充実

「キャリア演習」等の授業を通じて、学生のジェネリックスキルを向上させる。

また、障がい者支援活動やボランティア活動に関するセミナーを拡充するとともに、地域課題の解決に向けた地域や企業との対話の場へ学生を派遣する正課外教育プログラムを構築する。

更に、大学スポーツ協会が進める事業を推進し、学生スポーツ応援による学生間交流の促進を図る。

#### c スポーツ活動及びサポート事業の強化

大学スポーツ協会が進める事業を推進し、スポーツ活動そのものの強化を図るだけでなく、コーチングスキルを向上させる研修会等への参加を促す。

### (エ) 社会貢献および地域連携

#### a 産学官連携事業の充実

(a) もち麦新品種「フクミファイバー」を使った加工食品「もち麦ラテ」（製造販売：寺尾製粉所）の開発を支援することで商品販売まで達成し、福崎町の地域創生事業（特産品ブランド化）に貢献した。

(b) 「福崎町まちづくり出前講座」を活用し、町職員2名を講師として大学に派遣してもらい地域社会に対する学生の理解と参加を促進した。

(c) 授業で学生が「まちづくり」のモデルケースを体験学習するにあたり、当該地域でのフィールドワーク実施に産官から協力を得た。

#### b 地域の要請に応じた地域貢献の充実

(a) 山口晏奈講師によるダンスイベントに触発された福崎町の要請により、ダンスによる町おこしをすべく、「まちダンスプロジェクト」として、教員1名学生スタッフ5

名でダンスのワークショップを実施した。7ヶ月間で10回開催し、延べ参加人数は32人だった。

(b) 令和5年度より、福崎町が企画・運営する「福崎町老人大学」に、本学が講座内容の調整と講師派遣を担当する「健康科学部」を設置。健康づくり講座を20回開講（10ヶ月間、月2回開講）した。健康科学部の受講者登録数は49名、講座担当教員は5名だった。

(c) 福崎町との連携事業として、「住民主体のまちづくり」に貢献するため福崎町学童親子運動教室への学生・教員の派遣と教室運営を実施した（健康スポーツコミュニケーション学科）。教室開催は、親子運動教室7回、学童運動教室12回。派遣人員の延べ人数は32人だった。

(d) 福崎町が企画する認知症総合支援事業に対し、大学周辺地域で「オレンジカフェ」（認知症カフェ）を民生委員の協力を得て学生・教員が年12回開催・運営した。利用者の延べ人数は112人だった。

(e) ボランティア活動による社会貢献・地域貢献について大学に報告のあるものは、大阪天王寺キャンパス2件（延べ参加人数7人）だった。

(f) 地域の要請による教員の講演活動は大阪天王寺キャンパス1件だった。

#### c 異文化交流の講師としての留学生派遣活動の拡充

留学生を近隣の学校に外国語授業の講師や異文化を紹介する講師として派遣する活動については、本年度の実績は0件だった。

#### d 社会貢献活動

公開講座を計8回開講した。講座受講者の延べ人数は29人だった。

- ・ 姫路キャンパス3回実施
- ・ 三宮サテライトキャンパス4回実施
- ・ 大阪天王寺キャンパス1回実施

#### (オ) 国際交流（国際交流）

##### a 日本人学生の海外学修の推進

コロナウイルス感染流行後、はじめて海外研修プログラムが実施された。マルタ島で語学&文化研修に学生2名（健康スポーツコミュニケーション学科・2年生・男子）が参加し、多文化への興味関心を高めたようであった。

後援会（保護者）による金銭的支援（学生向け）も得られるようになったので、さらに参加者の増加に努めたい。また、今後も変わらず、学生個人の健康に留意しつつ、海外研修を推進していく。

また、姫路キャンパスの外国人留学生増加に伴って留学生センターが発足されたので、学生課や教学課と連携を取りながら、学内の外国人留学生と日本人学生の相互理解と交流の機会を増やしていく。

##### b 外国人留学生の受け入れ態勢の整備

姫路キャンパスにおいて、前述の通り留学生センターが発足した。留学生数が増加しても、外国人留学生の生活面および学修面における支援の充実を継続して行う。

また、従来に引き続き、日本語能力の向上のためN1およびN2（日本語能力試験）の

受験を奨励し、その合格を目指した勉強会の開催と内容の充実化を更に図る。

### c 海外大学との交流

海外の大学との交流を促進するべく、現在台湾の大学（2大学）とMOU締結に向けて準備を進めている。

## （カ）就職支援の充実

### a キャリア教育の充実

教職員との連携を強化し、就職支援・相談体制の一層の充実を図った。学生に必要な情報を迅速に届ける仕組み（Webポータルシステム（ポータルサイト））の運営の拡充と利用を促進し、就職セミナー、資格取得支援講座、就職フェア等へのより多くの学生の参加を促した。

1、2年生には、キャリア教育（「キャリアデザインⅠ」「キャリアデザインⅡ」）の指導体制を更に整備するとともに、その内容の一層の充実化を図り、今後の進路、職業選択に向けて、自己理解とコミュニケーションスキルの向上を目指した。

3年生には、1年間通じて活用できる「キャリアサポートブック」の配布や就職ガイダンス・就職セミナーの開催、およびゼミ単位での就職支援を行った。また、インターンシップ情報も発信しインターンシップ説明会への参加を促した。

4年生には、就職活動解禁とともに開催される企業合同説明会への参加を促した。

また、部活生（野球部）に対して、部活動単位での企業説明会や見学会を実施した。

### b 留学生に対するキャリアサポートの強化

大阪天王寺キャンパスでは、特に留学生に対して日本の就職活動に対する理解を深めるため、年度当初に全学年に就職ガイダンスを行った。また、留学生の日本語能力に配慮し、就職活動をバックアップするため、履歴書やESの書き方、面接時の質問への対応指導など就職支援態勢を強化した。

大阪天王寺キャンパス内で企業合同説明会を実施し、留学生の採用に興味・関心のある企業等への働きかけを行った。

### c 就職率の向上

令和5年度の就職率（進学も含む）は、97.9%であった。なお、留学生を含む全体の就職率は、88.4%であった。

就職支援においては、就職内定率向上に加え学生の希望する就職や学生の個性や適性に合った就職へと結びつけることを課題とし、学生との個別相談（対面・オンライン）の機会を重視し取り組んだ。また、兵庫県内の企業やイベントの把握、就職に係る情報の交換、企業との就職情報交換会に参加した。県外の地域については、学生の出身地域で開催される企業情報交換会に参加した。

## （キ）募集・広報

### a 全学的な広報活動

高校訪問活動の充実を図り、高校との信頼関係を築くべく全学体制で学生確保に向けた募集・広報活動を展開してきた。また高大連携協定の締結を進めてきた。現在は高大連携校を対象とした入試を行っているが、これを発展させ、奨学制度を充実させるよう検討を進めている。

訪問時に有益な情報が提供できるよう、在学生の状況把握に加え、世間の動向にマッチした学内外等の話題作りができるよう各部署と連携を図るよう努めてきた。また、女子学生獲得に向けた方策及びスポーツに関する学習や技能育成を念頭に検討してきた。その結果、女子バスケットボールの指導経験を有する教員や、女子陸上の指導者を採用した。

この際、情報発信をHPとリンクしたSNSを駆使して行い、資料請求者の増加に繋げ、体験型オープンキャンパスへの誘導を強化した。従来、HPの作成を依頼してきた既存の業者を変更し、実績のある企業に作成を依頼した。また、多彩な魅力ある出前授業を揃え、高大連携交流のさらなる拡大・促進を図ってきた。

#### **b 入試の多角化**

アドミッションポリシーに基づく、入試の多角的なあり方を検討し、オンライン入試の更なる充実を図ってきた。また、オンライン化に伴う不正防止対策を行ってきたが、さらなる改善を図っていく。

#### **(ク) 学部学科の改組転換等の検討**

令和5年度に、既設の健康スポーツコミュニケーション学科を母体として「健康スポーツ学部健康スポーツコミュニケーション学科」を設置する準備を進め、令和6年度より開設することとなった。今後は計画を遺漏なく履行し、設置計画履行状況等調査(AC)に対応する。

また、令和7年度から、人間社会学部経営データビジネス学科を姫路キャンパスに設置する計画を具体化した。

#### **(ケ) 大学自己点検評価**

令和5年度は、令和6年度の大学機関別認証評価(日本高等教育評価機構)の受審に向け、自主的な点検・評価活動を行い、その成果を「令和5年度自己点検評価書」として取りまとめ公開した。

## エ 福岡第一高等学校・第一薬科大学附属高等学校

### (ア) 教育

#### a 教育内容の充実

「個性の伸展による人生錬磨」を創立以来の建学の精神として、それぞれの生徒が他に真似できない資質や美点、長所や特技を伸ばすことのできる教育環境を整えることと、生徒の目的意識や興味を涵養する教育体制を連年構築してきた。

また、時代のニーズに応じるユニークな教育を準備するための改変を継続的に実施しており、他校にない個性ある教育を展開して差別化を図るとともに、本校独自の「パラマ塾」を生徒のそれぞれの個性を磨く場として継続・発展させている。これらの成果として、本校で個性を磨いた卒業生たちが様々な分野で活躍しメディアで本校の出身者であることが繰り返し紹介されることも本校の魅力化に繋がっている。

その結果、近年は福岡第一高等学校・第一薬科大学附属高等学校を合わせた入学生数が右肩上がりが増えており、教育内容の魅力化と他校との差別化の努力が実を結びつつある。

#### b 授業体制の進化

##### (a) 学科・コースの見直し検討

###### 【福岡第一高等学校】

建築土木の基礎的事項を習得させるため、令和5年度入学生より建築土木科のコース統合を行い、1学年時には基礎的事項を修得させ、2学年次からコース別に区分する教育体制とした。

また、令和6年度より、建築土木科に電化製品などのデザインやインテリアデザインの内容を含めることとし、名称を「建築デザイン科」とするための学則変更を行った。

###### 【第一薬科大学附属高等学校】

社会のニーズに応えるため、A I ビジネス科をビジネスコース、フードビジネスコース、ビューティビジネスコースに分けるとともに、保育科を保育コースと動物愛育コースに区分し、時代のニーズの変化に伴う選択ができるようにコースを拡大させた。

また、令和6年度より新設したA I ビジネス科フードビジネスコースの教育内容の明確化を図るため、名称を「A I ビジネス科食ビジネスコース」と改めるための学則変更を行った。

##### (b) パラマ塾の充実

「個性の伸展による人生錬磨」を具体化するための本校独自のプロ講師によるユニークな塾形式の授業である「パラマ塾」を48塾から50塾に増加するとともに、生徒の興味を刺激する新たな塾に変更・新設するなど、さらに多彩なコースを設置し、生徒の個性を伸ばし育てる環境を整えた。

#### c 各種行事

「個性の伸展」を目的とした教育の一環として、「クラスマッ知」、「パラマ祭」など独自のユニークな行事を充実しているが、その中でも、熱中症対策の一環として始め

た「夜の体育祭」は生徒の中で大いに盛り上がりとともに、全国初の試みとして幾度もメディアに取り上げられ、また、本校をアピールする絶好の機会となった。

#### d ICT教育の充実

生徒へのiPadの貸与を継続し、1人1台の端末を自由に使用できる環境を確保して、生徒がコンピュータやインターネットを効果的に使用するスキルの向上を図っている。

また、教育用のオンラインプラットフォームや学習管理システムの活用、デジタル教材やインタラクティブな学習ツールの導入を進め、また、コンピュータAI科を中心に、コーディングやプログラムの作成をはぐくむ環境も強化している。

他方で、プロジェクトベースの学習アプローチを通し、生徒が実際の課題に取り組みながら、チームワークやイノベーションのスキルを養う環境と、授業のみならず土曜日のパラマ塾（特別活動）の時間にメタバース空間設計やVR実習など、ITに関する幅広い環境も引き続き整えていっている。

#### e プレゼンテーション能力の向上

本校の毎年の行事となっている「クラスマッ知」を10月に開催し、全校生徒が夏のサマープログラムの時期を利用して、様々な角度から調べ学習を行い、また、感性や分析力を磨く場とした。その結果、プレゼンテーション能力について、昨年度より格段の向上が図ることができた。

#### f 高大連携教育

継続した関連大学等での実習教育を行い、専門性の高い能力を習得させ、また意識を涵養させ、大学進学後の教育にスムーズに適応させることができた。

### (イ) 進路・就職の支援

#### a 共通事項

「個性教育」の理念を同じくするグループ関連大学等との高大連携を促進させるとともに、特別事業、実習等に参加させて、生徒の進路意欲の向上と進路指導を実施するとともに、国内外の入試情報を職員間で共有して、生徒の希望に沿う進路指導を実施している。

就職に関しては、地域企業との関係を強化するとともに、ハローワークとの連携を密にし、また、資格・検定の取得を計画的に実施させ、就職の有利を図っている。

#### b 高大連携の積極的推進

##### 【福岡第一高等学校】

令和5年度は、予定通り関連校への体験学習を行う計画が実施でき、進路決定の具体的な考えをまとめさせる機会ができた。また、グループ校（日本経済大学、第一薬科大学、第一工科大学、神戸医療未来大学、福岡こども短期大学、専門学校第一自動車大学校、福岡天神リハビリ専門学校）の利点を生かし、関連校への進路選定を勧誘した。

その結果、進学希望者に占める進学者率は、98.6%（令和4年度93.8%）であり、このうち進学者全体に占める関連校への進学率は約38.0%であった。

##### 【第一薬科大学附属高等学校】

「普通科薬進コース」にあつては、第一薬科大学の附属高校としての優位性を活かし、大学の講義受講を単位として取り扱うほか、大学見学・実習体験を行った。

また、「保育科保育コース」についても、専門科であることから福岡こども短期大学などと積極的に連携し、関連校への高い進学者を確保した。

その結果、進学希望者に占める進学者率は、91.5%（令和4年度81.1%）であり、このうち、進学者全体に対する関連校への進学を占める割合は、47.3%となった。

## **b 就職に対する支援**

### **(a) 全般**

#### **【福岡第一高等学校】**

就職希望者 161 名のうち、就職者内定者 158 名であり、就職率 98.1%であった。卒業後も就職活動のサポートを継続していく。

#### **【第一薬科大学附属高等学校】**

就職希望者 42 名のうち、就職者内定者 42 名であり、就職率 100%であった。

今後とも就職希望者の希望に沿う就職先の確保に努めていく。

(b) 進路指導担当が企業からの訪問を受け積極的に就職情報を収集・伝達を行うとともに、生徒と企業のマッチングに努め、企業と高校の信頼を深め、採用枠を確保した。

(c) 計画したインターンシップが実施でき、生徒の選択に応じた企業の開拓等が円滑に行われた。

## **(ウ) 募集・広報**

### **a 全般**

募集目標については、ともに定員の確保を目標として各種の募集広報施策を実施した。

その結果、募集環境の厳しい中、令和6年度の入学者は、福岡第一高等学校は定員を上回る763人（昨年比+52人）、第一薬科大学附属高等学校は定員に及ばなかったものの、前年度を超える265人（前年比+33人）と、大幅に入学者数を増加させることに成功した。

### **b オープンキャンパス等の充実**

2回のオンラインによるオープンキャンパスと対面型の7回のオープンキャンパス及び保護者・中学校に向けた説明会を実施した。特にオンラインによる中学校説明会においては創意工夫を持って実施した。

前年度と比較し、中学校等への訪問回数は増加した、通学可能な区域中学校約205校及び塾に対して、延べ220回、その他の区域外中学校約30校に対して延べ40回の募集広報を実施した。その結果、昨年度を大幅に上回る4,296名（前年度3,901人）のオープンキャンパス参加者を得ることができた。

また、P-ONE高（通信制課程）の広報募集も、定期的な学校訪問、オープンキャンパスの実施により例年に比して大きな成果を上げた。

### **d ホームページ等の充実**

学校の話題や学生活動をタイムリーに掲示するなどして瞬発力のあるホームページ

を作成するとともに、SNSを活用した広報活動を行った。

ホームページのアクセス数は、福岡第一高等学校が年間約190万人（令和4年度約200万人）、第一薬科大学附属高等学校が年間68万人（前年度62万人）となった。

**e 情報公開の推進**

学校行事、各説明会等様々な情報をホームページに掲載し、正確な募集情報等の公開に努めた。また、本校の教育活動等をSNSや動画配信で発信し、本校を身近に感じるように理解や関心を高め、信頼される学校づくりを推進した。

**f 独自の奨学生制度の導入**

前年度に引き続き、社会のニーズに応じた本校独自の奨学生制度（パラマ奨学生・兄弟姉妹奨学生等）を導入し、効果的な募集活動を展開して入学者の確保に努めた。

**g 留学生の確保**

令和5年度は、コロナ禍の影響も収まり、一部入国ができない留学生がいたものの、概ね順調に推移した。

**(エ) 退学防止**

**a 全般**

令和5年度の退学者は、福岡第一高等学校が41人で生徒数全体に占める割合が2.1%（令和4年度26人（1.4%））、第一薬科大学附属高等学校が12人、2.2%（令和4年度11人（2.3%））であり、一定の水準で推移している。

**b オンラインによる授業の継続**

今年度も毎週水曜日のハイフレックス授業は様々な理由により登校をためらう生徒にとっては効果的な授業展開で学業を続ける選択肢となった。

**c 退学防止委員会の設置（「GAT」（グリーンアシストティーチャーズ）**

退学者を減らすため退学防止委員会を設置し、退学者の傾向分析の結果、別室学習、遠隔授業、全通併修による単位取得、総合学習を学生に合わせて引き続き行っている。

**d 絆・居場所づくり**

生徒に対して絆を深め、居場所を作る場としてパラマ塾（自分との出会いの場、個性開拓の場）及びサマープログラム（生徒主体のクラス学習会）などを実施し、生徒が安心できる場所の確保に努めた。

**(オ) 課外活動の成果**

**a 男子バスケットボール部**

SoftBank ウインターカップ 2023 令和5年度第76回全国高等学校バスケットボール選手権大会 優勝

令和5年度全国高等学校総合体育大会バスケットボール競技大会 3位

U18 日清食品トップリーグ 2023 3位

第76回全九州高等学校体育大会バスケットボール競技大会

全九州高等学校バスケットボール春季選手権大会 優勝

**b 陸上部**

令和5年度全国高等学校総合体育大会 走高跳・三段跳 決勝進出

JOC Jr. オリンピックカップ第17回 U18 陸上競技大会 走高跳 優勝

2024 日本室内陸上競技大会 U18 走幅跳 準優勝

令和 5 年度全九州新人陸上競技大会 男子棒高跳 優勝 走高跳 優勝

秩父宮賜杯第 76 回全国高等学校陸上競技対校選手権大会 北九州大会

男子フィールドの部優勝・男子走高跳優勝・男子三段跳準優勝

**c ヨット部**

全国高等学校総合体育大会ヨット競技大会 女子コンバインド級（団体）準優勝

同上 女子 420 級 準優勝

同上 女子レーザーラジアル級 3 位

**d 剣道部**

玉竜旗高校剣道大会 2023 男子団体 ベスト 8

令和 5 年度全国高等学校総合体育大会剣道大会兼第 70 回全国高等学校剣道大会

男子団体 準優勝

令和 5 年度総合体育大会剣道大会福岡県予選 男子団体 優勝

令和 5 年度第 33 回全国高等学校剣道選抜大会 ベスト 8

**e テニス部**

第 46 回全国選抜高校テニス大会 福岡県大会 団体 優勝

第 46 回全国選抜高校テニス大会九州大会 団体 3 位

第 46 回全国選抜高校テニス大会 団体 ベスト 32

令和 5 年度 全国総合体育大会福岡県大会 優勝

令和 5 年度 全国総合体育大会九州大会 3 位

令和 5 年度 全国総合体育大会テニス競技大会 ベスト 16

**f 駅伝部**

令和 5 年度第 73 回全国高等学校男子駅伝競走大会 福岡県予選会 準優勝

**g 吹奏楽部**

第 68 回九州吹奏楽コンクール高等学校の部 金賞

第 68 回福岡吹奏楽コンクール高等学校の部 金賞

第 39 回福岡県吹奏楽コンクール高等学校の部 金賞

**h クラシック演奏部**

第 24 回ショパン国際ピアノコンクール in Asia 高校生部門 アジア大会 金賞

第 47 回全九州高等学校音楽コンクール ピアノ部門 金賞 および グランプリ

第 25 回ショパン国際ピアノコンクール in Asia コンチェルト C 部門

アジア大会 銅

**i e-スポーツ部**

2023STAGE:0 VAROLANT 部門 九州沖縄ブロック 優勝

**(カ) 危機管理**

月一回の安全衛生委員会により、基本的な対策、災害の防止について関係者に徹底するとともに、資料を掲示して教職員の情報共有を図った。

また、教員による生徒に対する機会を捉えた交通安全教育、サービス指導、その他生活行動における危機管理対応を図った。

**(キ) 教育施設等整備**

各種補助金を利用して、計画的に I C T 環境の充実や老朽化している空調設備の更新を進めている。

令和 5 年度においては、工業館のパソコンルームの端末を刷新して、I C T 教育環境を充実するとともに、福岡第一高等学校の本館 3 階、北館 4 階、南館 3・4 階、西館 2・3 階の一部の教場の空調設備、並びに第一薬科大学付属高等学校の 2~4 階の一部の空調設備の更新を実施した。

## オ 専門学校第一自動車大学校

### (ア) 教育

#### a 一級自動車メカニックコース

- (a) 令和6年の自動車整備士制度等の見直しに伴い、自動車の点検・整備・検査に係る専門的な知識及び技能、特に電子制御装置に係る内容として教科書に先駆けて自動運転に係る内容を実習させるとともに、各種の整備用診断器を用いて応用的な故障探求として車載エンジンにおける故障探求の実習により、究めて実務に近い技能水準を身に着けさせた。
- (b) 環境保全や安全管理に適應できる車の電子制御装置の発達やハイブリッドカーの普及に伴い総合的業務として、低電圧取扱者の資格の復習を兼ねて感電の危険性を考慮したハイブリッドバッテリーの脱着を実施する等深く充実した整備士を育成する事ができた。
- (c) 最先端設備を揃え、高いレベルの技術として、学校で出来る準備として一人で法定点検できるレベルまで引き上げ、インターンシップにおいて現地確認の機会を活用し、現場の情報を収集しながら社会で活躍でき、お客様に分かりやすく情報提供ができるスキルを身につけさせることができた。
- (d) リサイクルを考慮した整備手法や、総合的な故障診断から整備計画の作成手法を習得させた。
- (e) 国家試験対策集中授業を実施。成績の伸び悩む学生へは個別に対応。結果、一級小型自動車整備士試験、学科合格率100%となった。

#### b 未来型パワーユニットコース

コース在籍学生が0名であるためコース廃止とした。

#### c メカニックコース

- (a) 令和6年の自動車整備士制度等の見直しに伴い、自動車全体に関する一般常識の知識及び技能を有し、単独で分解整備作業が行える水準まで身に着けさせる事ができた。
- (b) 新教育カリキュラム制度導入（サイクル型）で、学生の出席率向上と学習意欲アップを図るとともにきめ細やかな教育を実践した。
- (c) 少人数制及び習熟度別クラスを編成し基礎を理解させ、自動車社会の多様なニーズに適應できるレベルの専門教育や失敗を恐れず、挑戦する勇気をもった人間性の育成を行う事ができた。
- (d) 足廻りの分解整備から、エンジンに関わる分解修理等の実習に力を入れ、基本的な作業の反復練習を行いながら、就職後即戦力として働けるよう技術力向上に努める事ができた。
- (e) 国家試験対策授業は伸び悩む学生へは個別対応など工夫して行い、二級ガソリン自動車整備士合格率100%、二級ジーゼル自動車整備士合格率98.4%となった。

#### d 留学生基礎自動車整備士コース

- (a) 日本語教育の強化を図り、N2もしくはN3に合格できるように授業の工夫と教職員のスキルアップに取り組んだが、残念ながら日本語能力試験（JLPT）取得

に繋がらなかったため、結果を分析してカリキュラムに反映させた。

(b) 地域貢献として、公民館において小学生や老人クラブの方を対象に、母国のPRをするとともに、日本の文化にふれさせることができた。また、積極的な意見交換にも取り組みコミュニケーション能力を身につけさせることができた。

(c) メカニックコースの教育への円滑な導入を図るため、外部の自動車教習所と連携した合宿により普通自動車運転免許の取得に臨み、100%取得させることができた。

#### (イ) 学生支援（進路指導含む）

a 早期に就職にむけての意識改革を図るため、ディーラーと連携し、「インターンシップ」を1年生の12月に実施し、希望会社への就職活動をサポートした。整備士としての一日の点検作業に慣れさせることができた。

b 履歴書作成・面接・企業へのアプローチ方法等について、外部講師や担任による個人指導を随時行い、卒業生からのバックアップ等のフォロー体制もとりながら就職率100%を達成した。

c 教職員で月1回社会人としてのスキルを身につけさせるため、礼法指導を実施し、規律正しい挨拶を身につけさせることができた。

d 卒業生のいる企業へ出向き、業務見学や面談により各種情報収集を実施した。

#### (ウ) 募集・広報

a SNSやホームページ等の電子媒体を積極的に活用し、高校訪問を含む各種広報手段の成果等のデータを継続的に収集・分析し、効率的・効果的な広報に努めた。

特に、Z世代を意識したSNSの制作、発信を意識し、早期かつタイムリーに広報した。結果SNS情報発信から女子学生のオープンキャンパス参加者が昨年より増加し入学者6名に繋がった。

b 中学・高校の体験学習を募集し積極的に受け入れるとともに、オープンキャンパスやオンライン学校説明会を活用し高大連携教育の深化・拡大に努めるとともに、産学連携を積極的に推進し、若者が興味を引く教育内容・要領に留意した。

c 通学圏内のJR等公共交通機関沿線の高校へ効率的・効果的な募集広報に努めた。離島を含めた県外の高校訪問は費用対効果の観点から5年度は実施せず、県外からの入学者は1名となった。

d 在学中の留学生に対し、学校施策やオープンキャンパス等の情報を積極的に提供し、ヒューマンネットワークや友達紹介によるオープンキャンパス参加等の募集広報の環境を整備し、日本語学校訪問、オープンキャンパス等の募集広報の終始を通じ、日本語能力がN2以上で、自動車整備に関心が高く、学習意欲も高い学生の確保に留意した。

e オープンキャンパスで各ディーラーとコラボ企画を計画した。現在、最新装備を備えている若者に人気の車を本校に持ってきていただき、試乗体験などのイベントを通じて自動車整備士に興味を持たせることができた。

#### (エ) 学校評価

a 学内外に高い評価を得ている就職率10年連続100%及び一級及び二級自動車整備士国家試験合格5年連続100%を目標にして良好な点を深化させた。

また、自動車整備士制度改革への対応を推進した。

- b コロナ禍において不十分であったインターンシップ等による教育活動の充実を図ることができた。
- c 入学時から、日本人については成績の悪い者には担任による保護者との連携などきめ細やかな面談に努め、保護者を含めた将来設計を描かせ、新入学生の退学者は1名に留めることが出来た。

留学生については学業意欲の低下（日本語力）、経済的問題で分割支払等による対応は出来ていたが、保護者希望での進路変更で退学者1名となった。

#### **(オ) 施設・設備**

各種点検、整備を行うとともに、経年劣化による老朽対策を実施し、教育環境の維持管理に努めることができた。次年度も計画的に老朽化対策を推進していく。

### **カ 東京マルチ・AI 専門学校**

#### **(ア) 教育**

##### **a IT の学校へシフト**

各学科にAIの基礎が学べる科目を設置。今後ニーズが高まるデータサイエンスが学べるカリキュラムに更新した。ビジュアルデザイン科を廃止し、IT色の強い学校として方向性を確立できた。

##### **b オンライン授業の活用**

モバイル・アプリケーション科の学生を対象として、不登校や通信制高校出身学生の退学防止に期待して、オンライン受講可能なカリキュラムに改めた。初の試みであるため、更にブラッシュアップして学生のニーズに応えられる学科にしたい。

##### **c 夏期・春期講習の実施**

就職活動及び資格取得を有利にするため、ゲームクリエイター科（ミニゲーム制作）、モバイル・アプリケーション科（Androidアプリ開発）、情報処理科（資格対策）を対象として夏期・春期講習を実施した。

#### **(イ) 学生支援**

##### **a キャリア形成プログラムの拡充**

計画どおり下記のイベントを開催し学生の就職支援を実施した。

- ・ 就活実践セミナー（2月）
- ・ 校内合同企業説明会（5月・11月）
- ・ 校内個別企業説明会（通年、ホームルームにて）
- ・ 留学生卒業後の在留資格に関する説明会（卒業生継続就職活動管理）

##### **b 就活エージェント企業との連携**

ホームルームや各種就職セミナーで就職活動に苦戦している学生にマンツーマンで求人を紹介。内定の成果が出た。学生にも好評であった。

##### **c メンタルヘルスプログラムの導入**

学校の財政状況が厳しいため、今回は見送ることとした。引き続き検討したい。

## (ウ) 募集・広報

### a Z世代を意識した広報

イラストを多用したわかりやすいリーフレットを校内で作成し、資料請求者や高校へ配布した。また、授業の様子やオープンキャンパスなどの情報を SNS で発信した。

### b オープンキャンパスの見直し

オンラインでのオープンキャンパスを地方の留学生に内容を特化し、8.8 倍増の参加者を獲得し出願増加につながった。なお、経費削減のため動画コンテンツの制作は見送った。

## (エ) 学校評価

### a インターネットでのクチコミ評価向上

IT 系は 90%超の就職実績を記録。就職サポートの手厚い学校として、HP や学校案内、SNS 等で PR した。急激なクチコミ向上は期待できないが、地道な学校評価の向上を図る。

### b 保護者や地域での評価向上

担任から保護者に対し定期的な情報共有を実施。成績や出席率報告も含めコミュニケーションを図った。また、清掃や啓発活動等の学生会ボランティアを通して地域に貢献した。

## (オ) 教材・施設整備

東京都私学財団の教育環境整備費助成事業を活用し、29 台の Mac パソコンと教育用ソフトウェア 120 ライセンスを更新するとともに、ゲームクリエイター科 3D-CG 制作対応のハイスペックパソコン 6 台を導入した。

また、令和 6 年度施設整備費補助金を活用して、学生用トイレのエコ仕様とするための補助金申請を準備した。

## キ 関東リハビリテーション専門学校

### (ア) 教育

#### a 対面とオンライン教育の実施

令和 5 年度は対面授業を中心に授業を行い、作業療法学科夜間部においては一部オンライン授業を取り入れながら授業を行った。また、学生の課題提出や個別面談等にはオンラインを積極的に活用し、校外臨床実習における学生には、臨床実習施設側の感染症対策状況を踏まえ、適宜オンラインを活用した学生指導を実施した。

#### b 国家試験対策の実施

国家試験の合格率は理学療法学科 95.8% (全国平均 89.2%)、作業療法学科 100% (全国平均 84.1%) であった。

理学療法学科は国家試験対策専任教員を指名し、基礎及び専門基礎の再教育を徹底し、過去問題及び全国模試の結果に基づく個人の弱点を克服する指導を行った。また、国家試験直前まで積極的に登校させ専任教員のもとで試験対策を実施した。

作業療法学科でも国家試験前に国家試験対策授業を実施し、模擬試験の結果をもと

に個人ごとに課題を提供し弱点の克服に努めた。また、グループワークで成績不振の学生には個別での対応を行い、改善がみられない学力不足の学生に対しては授業前に登校させ徹底的に弱点を克服させた。さらに、学生の模擬試験に対する重要性の意識付けを徹底した結果、クラス全体の国家試験に対するモチベーションを維持することにつながり、全国平均以上の合格率を達成することが出来た。

#### c 新型コロナウイルスの影響

新型コロナウイルス陽性者が数名発生したが、クラスターといった状況は発生せず、大きな授業計画の変更はなかった。病院やリハビリ施設で行う臨床実習についても、感染症によるキャンセルや途中中止などは発生せず、全員が予定通り履修することが出来た。

### (イ) 学生支援

#### a 校内就職説明会の実施

実習施設先からの就職依頼が多数あることから、8月に理学療法学科、8月と12月に作業療法学科の校内就職説明会を学生の就職活動をサポートする為に実施し、学生の就職活動に活かすことができた。

実習先を中心としたリハビリ関連施設 75 施設の参加を受けてオンラインで実施した。その結果、学生の就職先として実習先や校内就職説明会に参加したリハビリ関連施設への就職につながった。

#### b クラス担任制の活用

定期的にクラス担任が個人面談を行い、学生一人一人の現状把握に努め留年、退学防止に努めた。作業療法学科では、学費を自己負担している学生も多く、経済的な理由から仕事やアルバイトのスケジュールを密にすることでの学力低下もみられる為、その都度ご父兄と連絡を取るように対応した。

#### c 学生相談室の設置

学生が気軽にさまざまな事を相談できるよう学生相談室にスクールカウンセラーを置き、週に1日、問題や悩みについて一緒に解決策を考え、新しい生き方を見出していくように学生を援助した。

#### d 入学前オリエンテーションの実施

令和6年度入学生に対し、入学前の3月にオンラインによる入学前オリエンテーションを実施した。入学前に新入生と交流を図り、入学後の授業や学校生活に馴染めるよう模擬授業を実施した。オンライン操作も体験してもらい、入学後に速やかに順応できるような方法で実施した。

#### e 各種資格の取得

##### (a) 日本スポーツリハビリテーション学会（JSSR）トレーナー認定資格

令和6年3月に認定資格取得のために講座を本校で開催し、3年生の希望者18名が受講し、全員が資格を取得した。資格取得者は年々増加している。

##### (b) 健康ゲーム指導士

福岡天神医療リハビリ専門学校で実施された「健康ゲーム指導士」講習会に作業療法学科の学生を参加させ、健康ゲーム指導士として20名が認定された。

**(c) 初級パラスポーツ指導員資格**

「初級パラスポーツ指導員資格」の取得申請を行い、理学療法学科3年生25が認定された。

**(d) 普通救命講習**

参加希望者が本校で受講し、15名が「救命技能認定証」を取得した。

**f 学生相互の交流の促進**

新型コロナウイルス感染症が令和5年5月8日から「5類感染症」に移行されたことで、春のボウリング大会を3年ぶりに実施し、秋のレクリエーション大会を新たに開催した。国際福祉機器展の見学も実施し、福祉機器の知識を深めながら学生同士の交流の場にもつながった。

**(ウ) 募集・広報**

**a 募集結果について**

令和6年度の入学者は、理学療法学科28名、作業療法学科3名の合計31名であり、令和5年度に比し理学療法学科が5名、作業療法学科が18名の合計23名の大幅な減少となり、目標の65名には遠く及ばなかった。各学科共通の要因としては、18歳人口の減少及び大学進学志向等が考えられるが、作業療法学科の減少要因は、令和4年度卒業生の国家試験合格率が全国平均を大きく下回ったことによる既卒者からの出願数減少が要因と考えられる。

**b オープンキャンパスの実施**

令和5年度は対面方式で、土日の昼間に行うオープンキャンパスを17回、平日の夜間に行う夜間見学会を13回、平日の昼間に行う個別相談会を9回実施した。オンラインによる個別相談会も実施し、総参加者数は合計146人であった。

オープンキャンパス及び夜間見学会時に個別に質問出来る時間を設け、見学者の疑問や不安の解消に努めた。

**c 公式ホームページの改善**

直帰率の低減施策としてホームページ内のリンクの見直しを行った。また、ホームページ内の滞在時間増加施策として、学校の雰囲気や特色等の分かる動画を作成しホームページ内での視聴を可能にした。

**(エ) 学校関係者評価の実施**

学校関係者評価委員会を実施した。本校で実施した自己点検をもとに外部の医師、理学療法士、作業療法士、卒業生を招いて、学生と本校の今後につながる建設的な意見を受けることができた。実施報告については、本校ホームページに掲載し公開中である。

**(オ) 地域活動への参加**

**a 立川市社会福祉協議会との連携**

令和5年度は、7月に認知症カフェ、9月に児童館の子供祭りに学生が参加。10月初旬より立川市社会福祉協議会と連携し、立川市で行われているサロンを主体とした地域活動に学生を派遣し、昨年度より1つ増え7つの団体の活動に学生が企画した作業療法視点での活動を実施し、立川市の広報誌「まちねっと」に掲載された。本校で取得した「健康ゲーム指導士」や基礎作業学実習で学んだアクティビティなどを地域

活動で実践することができ、本校を地域住民に周知することもできた。社会福祉協議会やサロンの出席者からも大変好評であり、出席者や社会福祉協議会の担当者より定期的に学生に参加してほしいという要望も聞かれた。

#### **b 公益社団法人東京都理学療法士協会との連携**

東京都理学療法士協会立川市国立市支部主催の都民公開講座に、本校教員2名、2年生2名が参加した。「理学療法士が伝えるこどもの体力と運動能力を伸ばすコツ」と題したテーマにて、参加者である子供と保護者に協力して簡単な運動テストから運動の方法に関してサポートを行った。今後も立川市および国立市主催のイベントへの参画を予定しており、教員学生共に地域活動を通じた都民への貢献を目的に活動予定である。

### **ク 福岡天神医療リハビリ専門学校**

#### **(ア) 教育**

##### **a 全般**

各学科の授業は、新カリキュラムに基づき問題なく進捗した。

##### **b 国家試験対策教育の成果**

令和5年度の国家試験合格率は、理学療法士が94.4%(全国平均89.2%)、作業療法士が100%(全国平均84.1%)、はり師が100%(全国平均69.3%)、きゅう師が100%(全国平均70.2%)、柔道整復師が100%(全国平均66.4%)であった。

##### **c 教員の能力向上施策の成果**

積極的な学会への参加や、病院施設等における最新のリハビリ技術の研修等により教員の能力向上を図った。

また、新規採用教員に対しては校長、学科長による授業実施に関する慣熟教育を行い、授業内容の充実を図った。今後も継続実施する。

##### **d 退学者の発生**

学力不振が理由での1年生の退学者が多く発生した。新入生には、学習習慣が身に付いていない学生が存在することから、学習意欲の低下による早期退学防止を図るためにも、学力や素養に応じた成績の個別管理・指導を実施する必要がある。

##### **e 教育の魅力化施策**

最終学年20名が日本スポーツリハビリテーション学会(JSSR)トレーナー認定資格を取得した。また、本校学生12名、学園内関連校学生93名及び他の高等学校からの受験希望者13名が健康ゲーム指導士資格を取得した。高等学校からの受験者のうち2名が令和6年度に本校作業療法学科を受験し入学した。

今後、国家資格に加えた付加価値的な資格取得の魅力と満足度をより具体的なものとするために、教育内容の一部カリキュラムへの取り込みや、資格取得者の卒業後の活躍の場を広報することが必要である。

#### **(イ) 学生支援**

##### **a 組織的就職サポート体制**

就職支援として、担任教員と就職担当事務員間の積極的な進路情報の共有により、学生個々の特性に応じたきめ細かい進路指導を行った。事業としては、各学科の3年生全員を対象に部外講師を招聘して「労働条件セミナー」及び「就職セミナー」を開催するとともに、九州管内の病院・保健施設等の人事担当者参加を得て「合同就職説明会」を実施した結果、卒業生で就職サポートを希望する学生の就職率100%を達成した。

#### **b 修学支援**

高等教育の修学支援新制度の機関要件の確認申請を行い、新制度の対象校であることの確認を受け、学生及び見学会参加者に対し、制度に関し周知するとともに、修学支援の手続きを実施した。

#### **c 学校生活の魅力化**

厚生活動の一環として、新入生のための「フレンドシップサークル」を継続実施し、入学直後の学生間の交流を深めることができた。

新型コロナウイルス感染症は5類へ移行されたが、感染拡大防止に万全を期すため学校祭は中止した。

### **(ウ) 募集・広報**

#### **a 全般**

令和6年度の入学者は前年比-33名となり、入学者定員(140名)を下回る105名となった。

#### **b オープンキャンパス**

入試広報委員会を毎週火曜日に実施し、時期に応じた適切な広報内容及び要領について検討し、実施要領の具体化とその徹底を図るとともに、出張模擬授業、進学説明会、高校訪問、オープンキャンパス(参加者289名)、ホームページを始めとするWebサイトやInstagram等のSNSを活用し、積極的かつ効果的な広報に努めた。

#### **c インターンシップ**

初の試みとして桜十字病院との連携によるインターンシップを実施して、見学者に対し、実際の病院におけるリハビリの状況について認識していただき、広報効果の拡大を図った。

#### **d インターネット**

教育機関としての本校の事業・活動等の情報を、ホームページ、Instagram等を活用して正確かつ迅速に掲載・公表を行った。また、逐次、ホームページの細部を修正し、より分かりやすく、時宜に応じた情報発信の要領を検討・実行した。

#### **e 高校訪問及びDM(ダイレクトメール)による募集広報**

年間の高校訪問実施計画に基づき、高校及び生徒の状況に応じた募集広報を継続的に行い、進路指導の教諭との信頼関係を確立し、受験者の拡大を図った。

また、訪問時期及び対象者に応じた広報資料及び高校訪問マニュアルを作成し、統一した広報活動の実施に留意した。

離島や遠隔地等で訪問が困難な高校に対しては、DMを送付するとともに、希望によりオンラインで説明を実施した。

**f 修学環境の整備**

校舎周辺の歩道の毎朝の清掃を継続するとともに、花いっぱいの専門学校として学生や教職員のみならず地域の方々にとっても、親しみやすい専門学校となるよう花壇の整備やプランターの花の手入れを継続的に行った。

**(エ) 施設・設備整備**

法令等に基づく消防・建築・各設備点検を受検したが、重大な指摘は受けていないが、老朽化に伴う軽度の指摘事項があり、その都度改善した。

また、各教室等の空調機器は、故障の都度、修理を実施したが、基礎作業実習室の空調機を修理不能により更新した。

**(オ) 自己点検・評価及び学校関係者評価**

令和4年度の校務運営に関し、自己点検・評価を実施し、今後の校務運営の改善の方向性を明らかにするとともに、令和5年度校務運営への反映を行った。

学校関係者による客観的意見を頂き校務運営の資とするため、令和6年度は学校関係者評価委員会を開催する。

**(カ) 部外支援**

福岡県高等学校体育連盟からの依頼により、柔道整復学科教員をもって年間延べ12回全九州高等学校体育大会、福岡県高等学校柔道大会等への医務支援を行った。

この際、同学科学生を帯同し、教員の指導下において医務支援を体験させるとともに、学校広報の一助とした。

**(キ) 治療院業務**

付属臨床治療院は実態として鍼灸学科及び柔道整復学科の臨床実習授業のみに使用していたが、医療体制を維持して地域へ貢献するという観点から、地域住民等に対する医療を行うよう検討している。

治療院としての体制の確立と医療トラブルの防止を重視して検討を継続する。

**ケ お茶の水はりきゅう専門学校**

**(ア) 教育**

**a 全般**

各学年新カリキュラムに統一され、問題なく進行している。

**b 国家試験対策**

(a) 「受験者全員のはり師・きゅう師国家試験合格」を目標とし、成績不良者も含め時間外の補講及び実技実習の効率的な運営を行い、学生個々の知識及び技術の向上を図った結果、全国平均を上回る合格率：はり師 95.5% (全国平均 69.3%)、きゅう師 95.5% (全国平均 70.2%) を達成することができた。

(b) 国家試験不合格者に対するサポート体制（卒業生で国試不合格者への受験前聴講生受入体制）の充実を図った。

**c その他**

(a) 実技授業における指導体制の確立と技能向上を図るとともに事故の未然防止を図

り、実技実習時の事故は皆無であった。

(b) 新型コロナウイルス感染症対策として、座学授業は、対面授業またはオンライン授業を選択する方式を取り、実技実習は、クラスを2分割にして授業中の「密」を避けて実施した。

(c) 日本薬科大学薬草園見学、神奈川歯科大学解剖実習見学等については、参加学生に対して感染防止対策を万全にして実施した。

#### (イ) 進路指導（就職支援も含む）

a 期待される学生像、信頼される鍼灸師像の明確化とそれに基づく資質能力向上を目指した指導を行い、今年度も就職希望者の就職率は100%を達成した。

b 学生指導組織の確立と役割の明確化を図り、学生ニーズの把握・理解に努め、迅速な対応を図ることができた。

c 親身な指導に基づく信頼感・充実感を醸成するとともに、面談等を活用した個別指導を実践した結果、学生の心情把握ができ、じ後の指導に繋がった。

d 就職支援セミナー、企業説明会を開催することにより、学生の進路に対する意識改革と就職率向上に繋がった。

e 本校卒業生が勤務している治療院を訪問し、勤務状況、勤務環境、患者さんの特異症例等の各治療院の特徴や後輩に対する生の声として学生に情報提供し、就職活動に反映することができた。

f 就職先の情報として、はり師きゅう師資格未取得者の受入先を確保する為に求人の開拓を行った。

g 学校カウンセラー（予約制）によるカウンセリングにより、日常の心のケアを行ない、ドロップアウトの防止を図った。

h 令和3年度に発足した同窓会活動は、4月3日に総会、7月29～30日に軽井沢セミナーハウスを活用した研修会、12月27日にスポーツ大会（ソフトボール等）、3月25日に台湾研修を実施して在校生と卒業生の交流を密にし、更に、就職等に関する情報交換を活発に行なった。

#### (ウ) 募集・広報

##### a 全般

募集目標である入学者数56名、（入学定員比100%）を達成した。

##### b 実践教育訓練給付金の講座の指定

(a) 本校はり師きゅう師学科（昼間部・夜間部）が、厚生労働省より専門実践教育訓練給付金の講座として指定され、56名の入学者のうち37名がその対象者となっている。

また、徹底した社会人狙いの広報より、イベント参加者数274名、出願者数116名と良い結果に繋がった。志願者の増加は、講座指定が大きな要因であり、今後も指定を継続させていく。

(b) 専門実践教育訓練給付金講座としての指定以降、志願者が大幅に増加した。

##### c 体験入学等

(a) 新規ターゲットの開拓により、体験入学参加者・学校見学者の増加に努めた。

(b) 体験入学に鍼灸師として活躍している卒業生を招聘した体験入学を年3回開催したが、卒業生の鍼灸師として活躍している姿を見せることで、イベント参加者が増加した。

d ホームページのリニューアルを行い、SEO対策を徹底的に行うことで、社会人に評価されやすいホームページに変更した。また、Web媒体を活用して、本校の教育実績等の情報発信を拡充及び認知度向上を図った。

#### (エ) 治療院業務

a 臨床実習に応じうる医療体制を維持するとともに、地域への貢献と患者からの信頼感を獲得した。

附属治療院において、令和5年度は1,429人の施術を行い、地域住民等に対する医療貢献を行った。

b 治療院業務を活用した「卒後研修」に卒業生6名が参加し、鍼灸師としての技能・識能向上に努めた。

c 関係者間の定期的なミーティングによる相互意思の疎通を図るとともに、医療トラブルの防止に努めた。

#### (オ) 学校関係者評価の実施

学校関係者評価委員会を令和5年12月に実施した。本校で実施した自己点検評価を基に、外部委員からは、はり師・きゅう師とも国家試験の合格率が、全国平均を上回り、9割を超えていることは高く評価できると意見を受けた。また、不合格者のフォローアップについても、希望者は聴講生として1年間通学し、学校と繋がりながら再チャレンジできる点が良いという意見や、定員充足率が向上してきていることは、財務だけでなく、教育活動の充実も示しているとの意見を頂いた。

#### (カ) 教材・施設整備

a 法令等に基づく消防・建築・各設備点検を受検し、老朽化等に伴う指導を受けたが、改善計画等に従い適切な処置を実施した。また、軽易な補修等については、自助努力により補修を実施して、良好な教育環境の維持に努めた。

b 消費期限を経過した防災備蓄品を適切に処分し、新たな防災備蓄計画を作成して防災備蓄用品（食料・水・タオルケット等）を備蓄した。

### コ 名古屋未来工科専門学校

#### (ア) 教育

a 日本人学生の基礎学力及び外国人留学生の日本語能力を向上させるために課外に補修講座を開講し、学生が意欲を持つような施策をとった。特に外国人留学生の日本語能力の向上の必要性を実感した。

b 豊田自動織機、コプロ・ホールディングス、内藤建設、日本住建等インターンシップに早期に参加することができた。

c 年度当初にオリエンテーションを実施し、授業計画を学生に示すとともに、長期休暇を活用して検定対策や日本語教育を実施し底上げを図ることができた。

- d 学生ファーストでの講義を展開できた。今後、コース選択制といったようなより細かな対応について検討する。
- e 講師の意欲向上、教育の質の向上目的で学科主任による授業観察を行った。授業観察後の学科主任の指導によりマンネリ化を防ぐ一助となった。

#### (イ) 学生支援

- a 資格取得に向け検定対策講座を開講したが、例年に比べ受講者が減少した。
- b 校内企業説明会、就職セミナー等を通じ自己分析から会社分析まで行うことでミスマッチを防ぐことができた。
- c トヨタ自動車、豊田自動織機、トヨタ車体、住友電装、清水建設、住友ファーマ、ココ壱番屋等大手企業から求人を獲得することができ、それら大手企業と学内での企業説明会も開催できた。企業とのつながりを密にし、就職支援へとつながられた。
- d 退学希望者の家族との連携が十分できず、退学者が昨年と比し増加した。
- e 留学生担当として4名の職員を配置。特に留学生の人数が多い機械・自動車工学科の学生には注視した。アルバイト、日本語、就職、病気等それぞれ色々な悩みを抱えており、少しでも負担が軽減するよう対応した。
- f ビジネスマナーを通して社会人としての常識を身に付けることができた。また、卒業対象学年の学生には中村年金事務所から講師をお招きし「年金セミナー」を開催し、社会人になる前の教育の一部を行うことができた。
- g 卒業生が代表を務める株式会社コプロ・ホールディングスにおいて産学連携協定締結後「グループワーク研修」及び「就職活動対策」の研修会を実施した。

#### (ウ) 募集・広報

- a 株式会社コプロ・ホールディングスから提供を受けた「企業奨学金制度」をPRし募集を実施するも残念ながら反応があまりなかった。
- b オープンキャンパスで使用する説明資料をより具体的かつ他校との差別化を明確にできるように刷新した。リピーターには前回とは別の内容で体験実習を実施しより興味を持ってもらえるような内容とした。また、面談において学生本人は当然ながら、父兄にもしっかりとPRすることができた。
- c 秋季・冬期の進学相談会の参加者は、昨年37名に対し今年は50名と大きく増加し、早期にアプローチできた。
- d 年間通して計画的に高校及び日本語学校への訪問ができた。特に年度当初に指定校推薦の依頼や入学者報告として積極的に先生方にご紹介することができた。
- e 「一人ひとり懇切丁寧に対応」という専門学校ならではの部分を4大との差別化とうたい、体験入学会でPRすることができた。

#### (エ) 学校評価

- a 就職指導について高い評価を頂けている。日本人学生はもとより、留学生の就職状況について評価を頂けた。
- b 近年コミュニケーションを取ることが苦手な学生が増加してきており、なかなか学生の心情を掴むことが難しくなっている。コミュニケーションが取れば退学率の減少にもつながると感じている。

- c 学校関係者評価で指摘された点を少しずつ改善していくことが大切。

#### (オ) 教材・施設整備

- a 他校との差別化を図るためにも逐次最新の教材に更新していく必要がある。  
特に、自動車整備に関する教材や施設についての強化を引き続き検討していく。
- b 校舎外壁の補修・塗装工事及びトイレの乾式化等について引き続き検討していく。
- c 名古屋銀行より私募債による寄贈品の提供を受けた。

#### サ 幼稚園・保育園

みやこ幼稚園・さわらサクラ幼稚園とも安全面を重視して各種行事を実施し、元気で礼儀正しい子供を育成する教育を行うとともに、年間を通じて時間外預かり保育を行った。  
また、両園とも園舎の改修、耐震工事を実施して、保育環境を整備した。

#### ス 法人本部（法人の事業活動を支える基盤整備）

##### (ア) 新学部の教育準備

令和6年4月教育を開始する神戸医療未来大学の「健康スポーツ学部」の教育準備を進めた。

##### (イ) 開設学部等のフォローアップ

令和2年に新規に設置した日本薬科大学大学院、第一薬科大学看護学部及び令和3年に開設した第一薬科大学大学院並びに令和4年開設の第一薬科大学薬科学科の教育基盤の充実に努めた。

日本薬科大学大学院及び第一薬科大学看護学部は、初の卒業生を輩出した。

##### (イ) 寄附行為・就業規則の改正

- a 神戸医療未来大学の「健康スポーツ学部健康スポーツコミュニケーション学科」の設置及び福岡第一高等学校の「建築土木科」を「建築デザイン科」への科名変更に伴う寄附行為の変更について文部科学大臣に届出し、令和6年4月1日付で寄附行為を変更した。
- b 経営と大学の教学の管理運営体制を強化するため運営委員会の規程を改定した。

## (2) 中期的な計画及び事業計画の進捗・達成状況

### ア 法人

#### (ア) 外部資金の獲得・寄付の充実

- a 教育研究活動の活性化を図り、科学研究費補助金や民間の団体等からの研究助成金や受託研究費の獲得に努めた。
- b 寄付を充実するため、「税額控除対象法人」の証明を取得した。
- c 耐震工事、校舎の改修等にあたっては、施設整備費補助金の活用に努めた。

#### (イ) 人事政策と人件費の削減計画

- a 定年後の継続雇用について厳格に管理した。
- b 教員の適正配置と事務組織のスリム化を維持した。
- c 財務及び学生の募集状況に応じ賞与を一部減額した。

#### (ウ) 経費削減計画（人件費を除く）

- a 予算の執行にあたっては「伺い書」を厳しくチェックして支出の優先順位・必要性を検討した。
- b 消耗品、光熱水費、旅費交通費、印刷製本費等、管理経費等の節約に努めたが、物価の高騰により支出額が削減額を上回った。

#### (エ) 施設等整備計画

令和3年度策定した耐震化計画に基づき、さわらサクラ幼稚園舎の耐震工事及び日本薬科大学研修棟他1棟の耐震診断を完了した。みやこ幼稚園のリニューアル工事も実施した。また、令和6年度に予定する第一薬科大学実習棟の耐震改修工事の準備を進めた。

また、神戸医療未来大学姫路キャンパス大ホール及び天王寺キャンパスの空調工事を実施するとともに、各学校からの要望に基づき、老朽化した施設・設備の更新を予算の範囲内で実施した。この際、各種補助金を極力活用した。

また、

#### (オ) 借入金等の返済状況

令和5年度借入未残は約弁により、621百万円減少7,211百万円となった。

### イ 第一薬科大学

(ア) 令和6年度より実施予定の新カリキュラム及び3つのポリシー改定の準備を行った。

新カリキュラムは、『薬学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）』に基づき、6年制薬学科及び漢方薬学科の1年次生を対象に、令和6年度の4月から新教育を開始する。

(イ) 再評価となっていた「薬学教育評価」は、自己点検・評価機能を強化して改善を進めた結果、令和5年度に受審した薬学教育再評価（本評価申請年度 平成30年度）において適格の判定を受けた。

また、令和6年度の機関別認証評価受審に向けて全学的な自己点検・評価を行った。

(ウ) 第109回薬剤師国家試験の新卒合格率は90.6%

第103回看護師国家試験の新卒合格率は89.6%であった。

(エ) 募集の成果

令和6年入学者数 大学院 2名（前年比+ 2名）

薬学部 86名（前年比△50名）

看護学部 75名（前年比+19名）

#### ウ 日本薬科大学

(ア) 医療ビジネス薬科学科に、令和6年度以降、教職課程（中高理科一種）を設置するための申請を行い、認定を受けた。

また、お茶の水キャンパスに韓国薬学コースを開設し、韓国医学の伝統校であるキョンヒ大学での短期留学に学生7名が参加した。

(イ) 日本高等教育評価機構による認証評価を受審し、大学評価基準に適合していると認定された。優れた点2点、①「漢方資料館は貴重な施設であり、広く利用され評価できる。」

②「教員相互による授業参観に全職員が参加していることは評価できる。」

(ウ) 第109回薬剤師国家試験の新卒合格率は83.3%であった。

(エ) 募集の成果

令和6年入学者数 大学院 1名（前年比△ 2名）

薬学部174名（前年比△ 50名）

#### エ 神戸医療未来大学

(ア) 令和5年度に、既設の健康スポーツコミュニケーション学科を母体として「健康スポーツ学部健康スポーツコミュニケーション学科」を設置する準備を進め、令和6年度より開設することとなった。

(イ) 令和7年度から、人間社会学部経営データビジネス学科を姫路キャンパスに設置する計画の具体化を進めた。

(ウ) 大学自己点検評価

令和6年度に受察する大学機関別認証評価に向け、自主的な点検・評価活動を行い、その成果を「令和5年度自己点検評価書」として取りまとめ公開した。

(エ) 募集の成果

令和6年入学者数 364名（前年比+ 195名）

#### オ 福岡第一高等学校・第一薬科大学附属高等学校

(ア) 社会等のニーズに応じたコース設定

福岡第一高等学校の「建築土木科」に様々なデザインの教育内容を含め、名称を「建築デザイン科」、第一薬科大学附属高等学校のA I ビジネス科「フードビジネスコース」の教育内容の明確化を図るため、名称を「食ビジネスコース」と改めるため学則を変更

(イ) 部活動の成果（全国大会レベル）

a 男子バスケットボール部

SoftBank ウインターカップ 2023

令和5年度第76回全国高等学校バスケットボール選手権大会 優勝

b 陸上部

JOC Jr. オリンピックカップ第17回 U18 陸上競技大会 走高跳 優勝

2024 日本室内陸上競技大会 U18 走幅跳 準優勝

c ヨット部

全国高等学校総合体育大会ヨット競技大会

女子コンバインド級（団体）、女子 420 級 準優勝

d 剣道部

令和 5 年度全国高等学校総合体育大会剣道大会

兼第 70 回全国高等学校剣道大会 男子団体 準優勝

e クラシック演奏部

第 24 回ショパン国際ピアノコンクール in Asia 高校生部門 アジア大会 金賞

(ウ) 募集の成果、

a 第一高校 令和 6 年入学者数 763 名（前年比+52 名）

b 付属高校 令和 6 年入学者数 265 名（前年比+33 名）

**カ 第一自動車大学校**

(ア) 自動車整備士制度の見直しが予定されているため「一級・二級自動車コース」の充実を図るため「未来型パワーユニットコース」廃止の学則変更を実施した。

(イ) 学内外に高い評価を得ている就職率は、10 年連続 100%を達成した。

また、一級及び二級自動車整備士国家試験の合格率は、100%を達成した

(ウ) 募集の成果

令和 6 年入学者数 128 名（前年比+33 名）

**キ 東京マルチ・AI 専門学校**

(ア) IT 系学科の就職率は毎年好調であるが、特にモバイル・アプリケーション科は 100%の就職率を達成した。

(イ) 留学生増加に伴い学科定員の見直し及び授業料 5 万円の増額の学則変更を実施した。学生数増加により今後は安定的な学校運営が見込める。

(ウ) 募集の成果

令和 6 年入学者数 225 名（前年比+107 名）

**ク 関東リハビリテーション専門学校**

(ア) 国家試験の合格率は理学療法学科 95.8%(全国平均 89.2%)、作業療法学科 100%(全国平均 84.1%)であった。

(イ) 学校関係者評価委員会を、本校で実施した自己点検をもとに外部の医師、理学療法士、作業療法士、卒業生を招いて、学生と本校の今後につながる建設的なご意見をいただくことが出来た。

(ウ) 募集の成果

令和 6 年入学者数 31 名（前年比△ 23 名）

**ケ 福岡天神医療リハビリ専門学校**

(ア) 国家試験合格率は、理学療法士が 94.4%(全国平均 89.2%)、作業療法士が 100%（全国平均 84.1%）、はり師が 100%(全国平均 69.3%)、きゅう師が 100%（全国平均 70.2%）、柔道整復師が 100%（全国平均 66.4%）であった。

特に、鍼灸学科については専門実践教育訓練給付金指定講座の要件を満たしたことから、令和 6 年 10 月 1 日指定を目指し同講座の申請を準備中である。

(イ) 募集の成果

令和 6 年入学者数 105 名（前年比△ 33 名）

## コ お茶の水はりきゅう専門学校

- (ア) 補講及び実技実習の効率的な運営を行い、全国平均を上回る合格率：はり師 95.5%（全国平均 69.3%）、きゅう師 95.5%（全国平均 70.2%）を達成することができた。
- (イ) 徹底した社会人狙いの広報より、イベント参加者数 274 名、出願者数 116 名と大きな成果に繋がった。専門実践教育訓練給付金の講座指定により、入学者 56 名のうち 37 名がその対象者となっており、今後も講座指定を継続させていく。
- (ウ) 学校関係者評価委員会を実施し、国家試験の合格率が高い点、不合格者のフォローアップについて高評価を受けた。
- (エ) 募集の成果  
令和 6 年入学者数 56 名（4 年連続 100%）

## サ 名古屋未来工科専門学校

- (ア) 就職支援により内定率は前年度 94%、本年度 96%であった。また、求人企業についても大手企業より多数の求人を頂ける環境を年々作れてきた。
- (イ) 学校関係者評価委員会において、「日本人学生の獲得」および「留学生の日本語能力向上の習得が必要」との改善意見をいただいた。
- (ウ) 募集の成果  
令和 6 年入学者数 140 名（前年比+ 70 名）

## シ 幼稚園・保育園

- (ア) 園舎の改修  
令和 4 年度から開始したみやこ幼稚園のリニューアル工事を完了した。また、さわらサクラ幼稚園・保育園の耐震補強工事を完了した。
- (イ) 募集の成果  
みやこ幼稚園 新入園者 36 名（前年比△ 7 名）  
さわらサクラ幼稚園 新入園者 9 名（前年比△ 10 名）  
さわらサクラ保育園 新入園者 7 名（前年比△ 2 名）

### 3 財務の概要

#### (1) 令和5年度決算の概要

資金収支計算書においては、施設・設備関係支出はリニューアル工事等の取組があったが、寄付金、資産売却等により翌年度繰越支払資金は前年度比約1,177百万円増となった。

事業活動収支計算書においては教育活動収入が前年度比14百万円増加、支出が78百万円減少し、経常収支差額は前年度比約100百万円増加し、153百万円となった。

貸借対照表においては、資産の部で所有不動産を売却した。負債の部で借入金は約定返済等により前年度比621百万円減少となった。

#### (2) 貸借対照表関係

##### ア 貸借対照表の状況と経年比較

(単位：千円)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
固定資産	78,897,267	78,158,284	77,381,481	75,645,178	73,983,365
流動資産	5,149,120	3,510,965	3,754,358	5,097,943	6,290,531
資産の部合計	84,046,387	81,669,249	81,135,839	80,743,122	80,273,896
固定負債	11,629,446	9,704,176	9,068,233	8,404,598	7,761,674
流動負債	3,980,819	3,183,252	3,043,042	3,086,388	3,324,712
負債の部合計	15,610,265	12,887,428	12,111,275	11,490,986	11,086,386
基本金	99,023,874	101,180,164	101,268,965	101,649,295	102,048,496
繰越収支差額	△30,587,752	△32,398,343	△32,244,400	△32,397,160	△32,860,985
純資産の部合計	68,436,122	68,781,821	69,024,565	69,252,135	69,187,510
負債及び純資産の部合計	84,046,387	81,669,249	81,135,839	80,743,122	80,273,896

##### イ 財務比率の経年比較

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
流動比率	129.3%	110.3%	123.4%	165.2%	189.2%
総負債比率	18.6%	15.8%	14.9%	14.2%	13.8%
前受金保有率	326.3%	231.2%	282.4%	395.8%	450.1%
基本金比率	97.4%	98.4%	98.5%	98.7%	99.0%
積立率	12.2%	7.9%	8.7%	11.3%	13.7%

(3) 資金収支計算書関係

ア 資金収支計算書の状況と経年比較

(単位：千円)

収入の部					
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
学生生徒等納付金収入	8,020,566	8,341,234	8,384,425	8,302,830	8,217,264
手数料収入	166,470	141,335	150,228	140,161	140,707
寄付金収入	13,893	49,547	10,069	57,485	50,364
補助金収入	831,417	1,080,381	1,152,149	1,167,805	1,325,526
資産売却収入	81,601	168	168	866,157	520,498
付随事業・収益事業収入	487,819	394,985	476,032	689,874	655,356
受取利息・配当金収入	1,873	363	253	254	278
雑収入	222,305	194,817	136,161	148,191	192,185
借入金等収入	200,000	0	0	0	0
前受金収入	1,486,741	1,350,344	1,240,693	1,196,630	1,313,802
その他の収入	448,444	245,103	358,557	193,501	375,360
資金収支調整勘定	△ 1,598,535	△ 1,831,358	△1,566,778	△1,551,417	△ 1,492,965
前年度繰越支払資金	5,566,573	4,850,921	3,122,572	3,503,700	4,736,810
収入の部合計	15,929,167	14,817,840	13,464,528	14,715,171	16,035,185

支出の部					
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
人件費支出	5,283,516	5,309,930	5,348,890	5,341,191	5,178,808
教育研究経費支出	2,260,250	2,195,786	2,273,574	2,599,497	2,666,188
管理経費支出	1,322,131	788,895	1,002,116	1,101,873	1,175,196
借入金等利息支出	260,290	226,925	152,825	139,911	126,741
借入金等返済支出	912,288	2,292,674	621,342	621,342	621,342
施設関係支出	624,904	92,547	237,805	70,934	193,845
設備関係支出	584,289	217,643	240,967	118,780	120,673
資産運用支出	0	0	3,922	0	0
その他の支出	663,333	1,025,986	482,877	374,485	444,991
資金支出調整勘定	△ 832,755	△ 455,118	△403,490	△389,673	△ 406,468
翌年度繰越支払資金	4,850,921	3,122,572	3,503,700	4,736,810	5,913,869
支出の部合計	15,929,167	14,817,840	13,464,528	14,715,171	16,035,185

イ 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

(単位：千円)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	9,731,013	10,100,408	10,202,726	10,453,291	10,487,209
教育活動資金支出計	8,863,535	8,292,213	8,621,635	9,039,468	8,996,991
差引	867,478	1,808,195	1,581,092	1,413,822	1,490,218
調整勘定等	26,299	△ 301,925	△144,294	△200,049	169,772
教育活動資金収支差額	893,777	1,506,270	1,436,797	1,213,773	1,659,989
施設設備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入計	91,118	59,891	70,447	883,160	550,911
施設整備等活動資金支出計	1,209,193	310,189	478,772	189,734	314,518
差引	△1,118,075	△ 250,298	△408,325	693,426	236,394
調整勘定等	302,587	△ 347,797	20,492	5,216	△ 124,398
施設整備活動資金収支差額	△ 815,488	△ 598,095	△387,832	698,642	111,995
小計(教育活動資金収支差額+施設設備活動資金収支差額)	78,289	908,175	1,048,965	1,912,415	1,771,984
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入計	470,550	65,378	116,389	80,254	182,945
その他の活動資金支出計	1,265,613	2,535,906	784,106	764,783	773,010
差引	△ 795,063	△2,470,528	△667,717	△684,530	△ 590,065
調整勘定等	1,122	△ 165,996	△120	5,225	△ 4,861
その他の活動資金収支差額	△793,941	△2,636,524	△667,837	△679,305	△ 594,926
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)	△715,652	△1,728,349	381,128	1,233,110	1,177,058

ウ 財務比率の経年比較

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
教育活動資金収支差額比率	9.2%	14.9%	14.1%	11.6%	15.8%

(4) 事業活動収支計算書関係

ア 事業活動収支計算書の状況と経年比較

(単位：千円)

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	8,020,566	8,341,234	8,384,425	8,302,830	8,217,264
	手数料	166,470	141,334	150,228	140,161	140,707
	寄付金	13,893	49,547	11,249	58,545	52,782
	経常費等補助金	821,900	1,020,658	1,081,870	1,150,152	1,265,113
	付随事業収入	486,831	355,605	442,857	655,308	627,347
	雑収入	238,432	120,802	122,954	119,362	137,440
	教育活動収入計	9,748,092	10,029,180	10,193,584	10,426,358	10,440,653
	事業活動支出の部					
	人件費	5,116,872	5,278,747	5,309,953	5,322,742	5,162,436
	教育研究経費	3,255,056	3,162,551	3,222,301	3,535,219	3,575,732
	管理経費	1,589,451	1,041,148	1,235,171	1,328,211	1,370,311
	徴収不能額等	74,694	74,814	79,436	59,103	59,134
教育活動支出計	10,036,073	9,557,260	9,846,862	10,245,275	10,167,612	
教育活動収支差額	△ 287,981	471,920	346,722	181,083	273,041	
教育活動外収支	事業活動収入の部					
	受取利息, 配当金	1,873	362	253	254	278
	その他の教育活動収入	1,440	40,878	36,043	34,565	28,009
	教育活動外収入計	3,313	41,240	36,295	34,819	28,287
	事業活動支出の部					
	借入金等利息	260,289	226,925	152,825	139,911	126,741
	その他の教育活動外支出	2,160	2,200	22,966	22,966	21,570
	教育活動外支出計	262,449	229,125	175,791	162,877	148,311
教育活動外収支差額	△ 259,136	△ 187,885	△ 139,496	△ 128,058	△ 120,024	
経常収支差額		△ 547,117	284,035	207,226	53,025	153,016

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
特別 収 支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	0	168	168	575,507	865
	その他の特別収入	21,016	81,514	82,085	25,485	81,078
	特別収入計	21,016	81,682	82,253	600,991	81,943
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	690,500	17,838	45,683	91,487	278,584
	その他の特別支出	203	2,181	1,052	334,959	21,001
	特別支出計	690,703	20,019	46,735	426,446	299,585
	特別収支差額	△ 669,687	61,663	35,518	174,545	△ 217,642
基本金組入前当年度収支差額	△ 1,216,804	345,698	242,744	227,570	△ 64,625	
基本金組入額合計	△ 1,754,117	△ 3,691,659	△255,643	△380,330	△405,764	
当年度収支差額	△ 2,970,921	△ 3,345,961	△12,899	△152,760	△470,389	
前年度繰越収支差額	△28,095,271	△30,587,751	△32,398,343	△32,244,400	△32,397,160	
基本金取崩額	478,441	1,535,369	166,842	0	6,563	
翌年度繰越収支差額	△30,587,751	△32,398,343	△32,244,400	△32,379,160	△32,860,985	

(参考)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業活動収入計	9,772,421	10,152,104	10,312,132	11,062,169	10,550,883
事業活動支出計	10,989,225	9,806,405	10,069,387	10,834,598	10,615,508

## イ 財務比率の経年変化

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
人件費比率	52.5%	52.4%	51.9%	50.9%	49.3%
教育研究経費比率	33.4%	31.4%	31.5%	33.8%	34.2%
管理経費比率	16.3%	10.3%	12.1%	12.7%	13.1%
事業活動収支差額比率	-12.5%	3.4%	2.4%	2.1%	-0.6%
学生生徒等納付金比率	82.3%	82.8%	82.0%	79.4%	78.5%
経常収支差額比率	-5.6%	2.8%	2.0%	0.5%	1.5%